# 西都市所在

やまのうしろ うしお

# 神遺跡・山之後遺跡

一般県道札ノ元佐土原線(潮工区)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

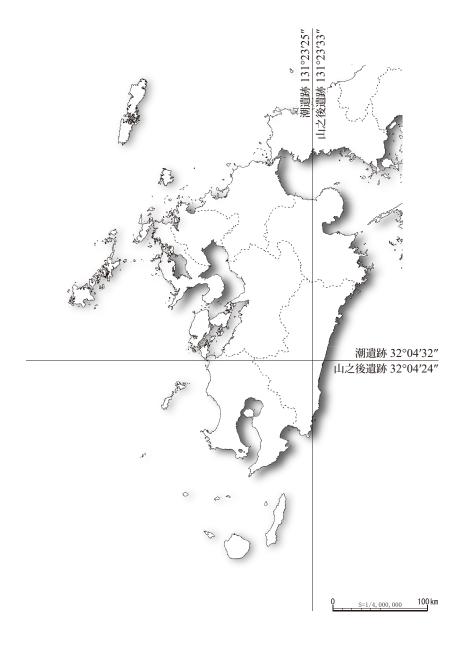
2017

宮崎県埋蔵文化財センター

西都市所在

# 潮遺跡・山之後遺跡

一般県道札ノ元佐土原線(潮工区)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2017 宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県教育委員会では、一般県道札ノ元佐土原線(潮工区)の道路改良工事に伴い、西都市鹿野田に所在する潮遺跡と山之後遺跡の発掘調査を実施しました。本書は、その発掘調査の記録を掲載した報告書です。

今回報告する潮遺跡では、7世紀前半頃の土器を焼いたと思われる土坑から多くの土器が出土しました。また、この場所では、その後、丘陵斜面の崩落が発生したことによって流路が形成されたようで、当時の人々が場所を変えながら生活を行っていたことがわかりました。

もう一つの山之後遺跡では、古代から中世にかけての遺物が多く出土しました。特に古代の遺物の中には、当時の官営の建物で使用されたと思われる瓦が少数ながら出土しています。また、わずかに1点ながらも、官営工房などで出土する簀巻き状の工具で成形を行った鞴の羽口も出土しています。これらの遺物から、付近に何らかの官営施設があったと考えられます。一方、中世の時期には、多くの土師質土器が出土しており、この時期に人々の生活が活発であったことをうかがうことができます。

以上のように、両遺跡の調査では多くの成果を得ることができました。今回の調査で得られた成果は、今後、当地域の歴史を解明する上で、貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成にあたって、御協力いただいた地元および関係諸機関の方々に心より厚くお礼申し上げます。

平成 29年11月

宮崎県埋蔵文化財センター 所 長 菅 付 和 樹

- 1 本書は一般県道札ノ元佐土原線(潮工区)道路改良工事に伴い宮崎県教育委員会が実施した、 宮崎県西都市鹿野田に所在する潮遺跡および山之後遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施し、潮遺跡の発掘調査を平成 27 (2015) 年12月14日から平成 28 (2016) 年2月2日まで、山之後遺跡の発掘調査を平成28 (2016) 年7月4日から同年9月8日まで行った。
- 3 発掘調査は潮遺跡を徳原宏樹・加藤徹、山之後遺跡を加藤徹・永野一美が担当した。現地調査における図面作成および写真撮影は調査担当者が分担して行った。
- 4 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、本書に係わる業務については、整理作業員の協力を得て行った。
- 5 空中写真撮影業務は有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
- 6 実測で使用した測量基準は、国土座標平面直角座標系第Ⅱ系(世界測地系)および東京湾海抜 (T.P.) で、方位は座標北を指す。また、国土地理院発行地形図は真北を指す。
- 7 本書で使用した土層・土器等の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土 色帳(2008年度版)』によるが、色調記号の記載がない場合はその限りではない。
- 8 石器石材については当センター赤崎広志普及資料課長に助言をいただいたが、誤りがあればそれは担当者の不学によるものである。
- 9 実測時の遺構・遺物の形状等を浄図した図に反映させる目的で、トレース時の線端が実測時の線に対応するように浄図を行った。なお、実測線とトーレス線の対応は下図の通りである。



- 10本書の執筆は第1章第1節を二宮、第1章第3節を徳原、その他の執筆及び全体の編集を加藤が行った。
- 11出土遺物およびその他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 本 文 目 次

序 凡例 目次

第1草	調査に全る経緯と調査の経過
第1節	調査に至る経緯
第2節	調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第3節	調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第2章	遺跡周辺の地理的・歴史的環境
第1節	遺跡周辺の地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第2節	遺跡周辺の歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第3章	潮遺跡の調査成果
第1節	基本層序 1
第2節	検出遺構 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第3節	出土遺物 · · · · · · · · 2
第4節	遺構と遺物の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第4章	山之後遺跡の調査成果
第1節	基本層序 2
第2節	<b>検出遺構 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·</b>
第3節	出土遺物 · · · · · · · 3
第4節	遺構と遺物の検討・・・・・・・・・・・3
第5章	総括
第1節	古代の社会について · · · · · · · 4
第2節	中世の社会について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

# 挿 図 目 次

図 1	7	朝遺跡・山之後遺跡周辺の地形分類凶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
図 2	· À	朝遺跡・山之後遺跡周辺地形図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
図 3	3	朝遺跡・山之後遺跡周辺の主要遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
図 4	į	朝遺跡調査区設定および遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
図 5	j }	朝遺跡土坑実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
図 6	<b>3</b>	朝遺跡溝状遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
図 7	' }	朝遺跡溝状遺構断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
図 8	3	朝遺跡自然流路・甌穴平面図 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
図 9		朝遺跡自然流路・甌穴断面図 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
図 10	) }	朝遺跡自然流路・甌穴平面図2 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	18
図 11	1 }	朝遺跡自然流路・甌穴平面図3・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
図 12	2 🏄	朝遺跡自然流路・甌穴断面図 2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
図 13	3 }	朝遺跡出土遺物実測図 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
図 14	1 À	朝遺跡出土遺物実測図 2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
図 15	5 L	山之後遺跡土層堆積状況概念図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	25
図 16	5 L	山之後遺跡調査区設定および遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
図 17	7 L	山之後遺跡検出遺構平面・断面図 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
図 18	3 L	山之後遺跡検出遺構平面・断面図 2 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	28
図 19	) [	山之後遺跡検出遺構平面・断面図3	29
図 20	) [	山之後遺跡出土遺物実測図 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
図 21		山之後遺跡出土遺物実測図 2 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	31
図 22	2 L	山之後遺跡出土遺物実測図3・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
図 23		山之後遺跡出土遺物実測図 4 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	33
図 24			33
図 25			33
図 26		山之後遺跡出土遺物実測図 7 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
図 27		山之後遺跡出土遺物実測図8・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
図 28	3 F	山之後遺跡出土遺物実測図9・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
図 29	) [	山之後遺跡出土遺物実測図10	35
図 30	) [	山之後遺跡出土遺物実測図11 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	36
図 31	l L	山之後遺跡出土遺物実測図12 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	37
図 32	2 [	山之後遺跡出土遺物実測図13 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38

# 表 目 次

表1	潮:	遺跡	• 山之後遺跡周	辺の	主要	遺跡·			9				
附表 1	,	潮遺	妳遺構計測値−	一覧表					43				
附表 2		山之往	後遺跡遺構計測	則値-	-覧・・				43				
附表3	-	表潮	遺跡出土遺物額	見察・					43				
附表4		山之往	发遺跡出土土岩	8等観	察表				45				
附表 5		山之往	後遺跡出土土類	12日・	石器	観察表	₹ · · ·		50				
				写	真	図	版	目	次				
図版 1		山之往	後遺跡調査地位	†近上	:空か	らみた	工区	路絲					
図版 2	図版 2 1 潮遺跡調査地上空から北側を望む 2 潮遺跡調査区全景図版 3 1 潮遺跡土坑 2 遺物出土状況 2 潮遺跡自然流路 1・2 全景 3 潮遺跡甌穴 4 底面の木製品出土状況 2 潮遺跡土坑 2 半裁状況 3 潮遺跡土坑 2 検出状況 4 潮遺跡甌穴 2 土層断面 5 潮遺跡甌穴 3 土層断面 6 潮遺跡自然流路 2 検出状況 7 潮遺跡甌穴 4 遺物出土状況 2 瀬遺跡高穴 4 遺物出土状況 2 瀬遺跡高穴 4 遺物出土状況 2 瀬遺跡調査地付近上空から南東方向を望む 2 山之後遺跡調査区全景												
図版 3		1 %	朝遺跡土坑2遺	貴物出	土状	況		2	潮遺跡自然流路1・2全景				
		3 潮遺跡甌穴4底面の木製品出土状況											
図版 4		1 %	朝遺跡土坑 2 核	<b>米</b> 出角	況			2	潮遺跡土坑 2 半裁状況				
		3 }	朝遺跡土坑1遺	貴物出	土状	況		4	潮遺跡甌穴2土層断面				
		5 i	朝遺跡甌穴3爿	_層断	面			6	潮遺跡自然流路2検出状況				
		7	朝遺跡甌穴4遺	貴物出	土状	況							
図版 5	第2       1       潮遺跡調査地上空から北側を望む       2       潮遺跡調査区全景         第3       1       潮遺跡出坑2遺物出土状況       2       潮遺跡自然流路1・2全景         第3       潮遺跡甌穴4底面の木製品出土状況       2       潮遺跡土坑2半裁状況         3       潮遺跡土坑1遺物出土状況       4       潮遺跡甌穴2土層断面         5       潮遺跡甌穴3土層断面       6       潮遺跡自然流路2検出状況         7       潮遺跡甌穴4遺物出土状況         5       1       山之潮遺跡調査地付近上空から南東方向を望む         2       山之後遺跡調査区全景         6       1       山之後遺跡土坑1・2検出状況         2       山之後遺跡土坑1・2院掘状況												
		2	山之後遺跡調査	### ### ### ### ### ### ### ### ### #									
図版 6		1	山之後遺跡土均	ī1 ·	2検	出状涉	2	2	山之後遺跡土坑1 · 2 完掘状況				
		3	山之後遺跡土均			況		4	山之後遺跡土坑4遺物出土状況				
		5	山之後遺跡土均	14完	掘状	況		6	山之後遺跡土坑6完掘状況				
		7	山之後遺跡土均	17完	掘状	況		8	山之後遺跡土坑8完掘状況				
図版 7		1 %	朝遺跡出土遺物	<b>v</b> 1				2	潮遺跡出土遺物 2				
		3	朝遺跡出土遺物	<b>7</b> 3									
図版 8		1	山之後遺跡出土	_遺物	11			2	山之後遺跡出土遺物 2				
		3	山之後遺跡出土	_遺物	13								
図版 9		1	山之後遺跡出土	_遺物	14			2	山之後遺跡出土遺物 5				
		3	山之後遺跡出土	二遺物	16								
図版10		1	山之後遺跡出土	二遺物	7			2	山之後遺跡出土遺物8				
		3	山之後遺跡出土	二遺物	J 9								
図版11		1	山之後遺跡出土	二遺物	110			2	山之後遺跡出土遺物11				

# 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

#### 第1節 調査に至る経緯

一般県道札ノ元佐土原線は、宮崎市佐土原町と西都市を結ぶ地域交通路であり、古来より内陸部と沿岸部の人と物資をつなぐ主要路として利用されてきた。しかし、東九州自動車道の西都ICの開通等によって、西都市潮地区での交通量が近年増加しており、本線と直交する一般県道荒武新富線の馬継谷交差点では通勤通学の時間帯を中心に交通渋滞が発生している。また、同地区内のカーブ区間では、過去に事故も複数回発生していることから、当該箇所において交通の円滑化を図ることは、急務の課題として取り上げられていた。そこで、宮崎県県土整備部西都土木事務所(以下、西都土木事務所)では、同地区のバイパス道路の整備を計画して実施することとなり、事業計画に先立ち新たな開発予定地における埋蔵文化財保護について、西都土木事務所から宮崎県教育庁文化財課(以下、文化財課)に対して照会があった。

事業予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、一般県道札ノ元佐土原線が古来よりの主要路であることや中世城館である国史跡都於郡城へと続く一般県道荒武新富線との交差点付近であることから、文化財課では詳細把握のために試掘調査による判断を必要とした。そこで、丘陵を挟んで南北に住宅地と水田として利用されている事業予定地に対して、平成27年10月に北側区域の7箇所、南側区域では平成28年3月に6箇所、同年8月に3箇所の計16箇所において試掘調査を実施した。急峻な地形である丘陵については調査対象外としたが、丘陵の南北にある水田部分に設定した試掘坑で、北側では古代の遺構・遺物が確認でき、南側では中世の遺物が集中して出土したことから、埋蔵文化財が顕著に残ることが明らかとなった。そして、この試掘調査の結果に基づき、西都市に対して「周知の埋蔵文化財包蔵地の新規発見」を平成27年10月27日及び平成28年4月12日付けで通知し、遺跡名については西都市と協議を行い、小字名から丘陵北側を「潮遺跡」、南側を「山之後遺跡」と呼称することとした。

文化財課では事業予定地のうち埋蔵文化財の存在を確認した地点の取り扱いについて、工事計画変更等の埋蔵文化財保護の方法を西都土木事務所と協議を行ったが、同地区のバイパス道路整備ができない状態では、交差点での交通の円滑化が図れず、また狭い県道でのカーブ区間の安全も確保できないことから、埋蔵文化財の現状保存は困難であるという結論に達したため、発掘調査による記録保存の措置をとることとなった。

「潮遺跡」は平成27年11月9日付け、「山之後遺跡」は平成28年4月8日付けで西都土木事務所長より文化財保護法第94条に基づく工事通知が提出され、それぞれ、平成27年11月24日付け、平成28年4月27日付けで発掘調査の指示に関する回答を宮崎県教育委員会教育長名で行った。発掘調査の実施については、宮崎県埋蔵文化財センターが担当し、「潮遺跡」は平成27年12月14日に、「山之後遺跡」は平成28年7月4日に着手した。

#### 第2節 調査の組織

潮遺跡・山之後遺跡の発掘調査・整理作業および報告書作成に伴う体制は次の通りである。

### 平成 27 年度 潮遺跡発掘調査

所長 岩切 隆志

副所長兼調査課長 菅付 和樹

総務課長 上谷 政隆

総務課総務担当リーダー 副主幹 安藤 忠洋

調査課調査第一担当リーダー 主幹 松林 豊樹

調査課調査第一担当 調査課調査第二担当 主任主事 加藤 徹 (調査担当) 主査 徳原 宏樹 (調査担当)

#### 平成 28 年度 山之後遺跡発掘調査、潮遺跡・山之後遺跡整理作業

所長 谷口 武範

副所長兼調査課長 菅付 和樹

総務課長 荒木 智恵美

総務課総務担当リーダー 副主幹 寺原 真由美

調査課調査第一担当リーダー 主幹 松林 豊樹

調査課調査第一担当 主査 永野 一美 (調査担当)

調査課調査第一担当 主任主事 加藤 徹 (調査・整理作業担当)

#### 平成 29 年度 潮遺跡・山之後遺跡報告書作成

所長 菅付 和樹

副所長兼総務課長 甲斐 久志

総務課総務担当リーダー 副主幹 寺原 真由美

調査課長 吉本 正典

調査課調査第一担当リーダー 主幹 松林 豊樹

#### 事業調整

平成27~28年度 宮崎県教育庁文化財課 主査 二宮 満夫

平成 29 年度 宮崎県教育庁文化財課 主査 甲斐 貴充

#### 第3節 調査の経過

#### (1) 潮遺跡

潮遺跡の調査は、面積 400㎡を対象として、平成 27年 12月 14日より調査区南側から表土掘削を開始した。試掘調査の結果を受け、基本土層のⅢ層を重機による掘削対象深度の目安とし 0.2mほど表土・耕作土を除去した。後世の削平のためか、調査区南側にはⅣ層は残存しておらず、試掘調査で確認されていた遺物包含層は、調査区北側に 3分の 1 程度のみ残存する状況であった。また、北側に向かってなだらかに傾斜していたため、調査区北端では最大掘削深度は 0.6mほどまで下がった。

12月16日より作業員を雇用し、掘削を開始した。調査は北側に残存していたIV層を作業員によって掘り下げ、V層上面を精査し遺構検出を行った。また、周辺の水の流れ込みがあったため、調査区内に排水用の溝と集水升を設定し、水中ポンプでの排水を行ったものの、降雨後は北側 1/3 程の範囲で水が溜まった状態で、掘削作業が進まないことが度々あった。

Ⅳ層中の出土遺物は、古代の土器などが確認できた。遺構については、V層上面で検出を行った後、土層観察用のベルトを設定し、掘り下げを行った。なお、土層観察時に一部、堆積について不

明瞭な遺構がみられたが、調査区外の南側にある丘陵地で同様の形状をもつ流路が確認できたため、 地形の連続性や遺構の形状が同一であることから自然流路と断定し作業を進めた。その結果、土坑 6基、溝状遺構3条を確認した。

適宜、実測図化作業、出土遺物の取り上げ、写真撮影等による記録作業を行った。平成28年2月2日から重機による埋戻しを行い、調査を終了した。

なお、平成28年1月4日に10m間隔でグリッドおよび座標(世界測地系)の設定を調査員が行い、 平成28年1月26日に空中写真撮影を業務委託により行った。

#### (2) 山之後遺跡

山之後遺跡の調査は、当初、排土を置く場所が確保できないため、調査対象範囲の北側半分を最初に行い、その後反転して南側の調査を行う予定であった。しかし、工期の都合等により、西都土 木事務所との協議の結果、調査期間の途中で排土を調査区外に搬出して、南側まで調査区を広げる こととなった。

まず、平成 28 年 7 月 4 日から 5 日にかけて、調査範囲の北半分を対象として重機による表土掘削を行った。重機による掘削は、文化財課の試掘調査を受けて、上部の 3 層分(I · II · V 層)を対象とし、その厚さは  $0.5 \sim 0.6$  mである。続く 7 月 6 日より作業員を雇用して、V 層の掘り下げを開始し、7 日には調査員で調査区グリッドの設定を行った。 7 月 8 日  $\sim$  14 日は、雨天や、降雨により調査区内に水が溜まったことにより調査を行うことができなかった。 7 月 26 日  $\sim$  8 月 16 日までV 層の掘り下げを行い、V 8 月 V 7 日に V 層上面において遺構検出のための精査を行い、ピットや土坑等の遺構を検出した。その後、遺構の掘り下げおよび実測等を行った。

北側の遺構掘り下げと実測作業に並行して、8月18日~19日に重機とダンプによる排土の搬出および重機による南側の表土掘削を行い、8月22日から人力による南側の掘り下げを開始する。なお、北側の調査において、遺物は $\mbox{$\mathbb{I}$}$  層を中心に出土していたため、南側の表土掘削は $\mbox{$\mathbb{I}$}$  層を中心に出土していたため、南側の表土掘削は $\mbox{$\mathbb{I}$}$  層を中心に出土していたため、南側の表土掘削は $\mbox{$\mathbb{I}$}$  層の掘り下げを行い、 $\mbox{$\mathbb{I}$}$  月1日に土坑 6・7、2日に土坑 8 を検出するとともに、掘り下げおよび実測を行った。そして、9月5日に空中写真撮影を業務委託により行い、9月6日まで作業を行った。最後に、9月7日~8日にかけて、重機とダンプによる持ち出した排土の搬入および重機による埋め戻し等を行って調査を終了した。

# 第2章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

#### 第1節 遺跡周辺の地理的環境

潮遺跡と山之後遺跡は西都市の南東部、宮崎市佐土原町および児湯郡新富町との境界に近い場所に位置している。西都市は宮崎県の中央付近に位置し、西側から、九州山地、段丘面、低地、そして日向灘という地形的な変化をしている。西部にそびえる九州山地は、白亜紀~古第三紀(1.5億年~2400万年前)に堆積した四万十累層群を基盤としており、その中を流れる一ツ瀬川がもたらす激しい浸食作用によって険しいV字谷を各所に形成している。そこから東へ向かうと、それまでの地形を形成していた四万十累層群から、中期中新世~後期更新世(1000万年~150万年前)に堆積した宮崎層群へと基盤が変化する。それとともに、標高200m付近になると、傾斜も緩やかな平野部へと移行し、それまでの起伏の激しい渓谷に代わって、平坦面と崖面から構成される段丘地形がみられるようになる。

この段丘地形は、その形成時期から最高位段丘群(中期更新世中頃)、高位段丘群(中期更新世後半)、中位段丘群(後期更新世前半)、低位段丘群(後期更新世後半)の4群に分けられている(長岡ほか2010)。西都市内でもそれぞれの段丘面が確認できる。最高位段丘として、34万年前以前に形成されたと考えられる東原段丘・野尻段丘があり、それぞれ東原段丘が西都市東原の標高160~150m付近、野尻段丘が西都市長谷観音の標高200~190m付近に分布している。高位段丘として、24万年前頃に形成されたと考えられる茶臼原段丘があり、西都市茶臼原周辺の標高120~135m付近を中心に分布している。続く中位段丘として、13万~7万年前頃に形成された三財原段丘・新田原段丘・西都原段丘がある。これらの段丘は標高20~120mの間に分布しており、平野部の広い範囲でみられる。西都市を代表する遺跡である古墳群も、茶臼原古墳群が茶臼原段丘上、新田原古墳群が新田原段丘上、西都原古墳群が西都原段丘上に位置するように、中位~高位段丘上に立地しているものが多い。その下位の標高10~50m付近には、7万年~1万年前にかけて形成された岡富段丘など多くの低位段丘面がみられる。さらにそれ以降に形成された沖積低地・海岸低地などが一ツ瀬川下流域から海岸部にかけて展開しており、隆起の影響により段丘を形成している。

これらの段丘は、多くのものが西都市を流れる一ッ瀬川やその支流である三財川や三納川によって形成されており、西都市内だけでなく、一ツ瀬川を挟んで東側に位置する新富町側でも、各段丘面が発達している。これらの地形を形成する要因となった一ッ瀬川は、全延長は宮崎県内4位の91.3km、流域面積は宮崎県第5位の852kmの二級河川である(宮崎県西都土木事務所2005)。この一ツ瀬川は、九州山地の市房山(標高1728.8 m)周辺の山地に源を発し、全延長の8割を占める九州山地内を蛇行しながら流れ、その途中で椎葉村や西米良村を通った後、西都市へ入る。市内では南東方向へと流れ、市街地付近で南、そして東へと大きく向きを変えながら市内を貫流している。その後、東側の新富町へと入り、さらに宮崎市佐土原町と境界を成すように流れ、終点の日向灘へと到達する。この河口付近では、昭和20年代に堤防が築かれるまでは、深い入り江を形成していた。一ッ瀬川の河口はこの入り江の奥に位置しており、入り江内の流れが速く、また深度も現在よりかなり深かった(宮崎県土木事務所2005)ようである。

潮遺跡・山之後遺跡は、日向灘沿岸部から直線距離でおよそ 10kmの内陸部にあたるが、標高は 12 m前後とそれほど高くはない。地形的には、南東に位置する中位段丘面の三財原段丘面から北 方向へと八手状に延びる丘陵の裾部に位置している。両遺跡はこの段丘面から延びる丘陵の南北裾 にそれぞれ位置している。この丘陵の東側に三財川が流れているが、遺跡付近は、近年においても

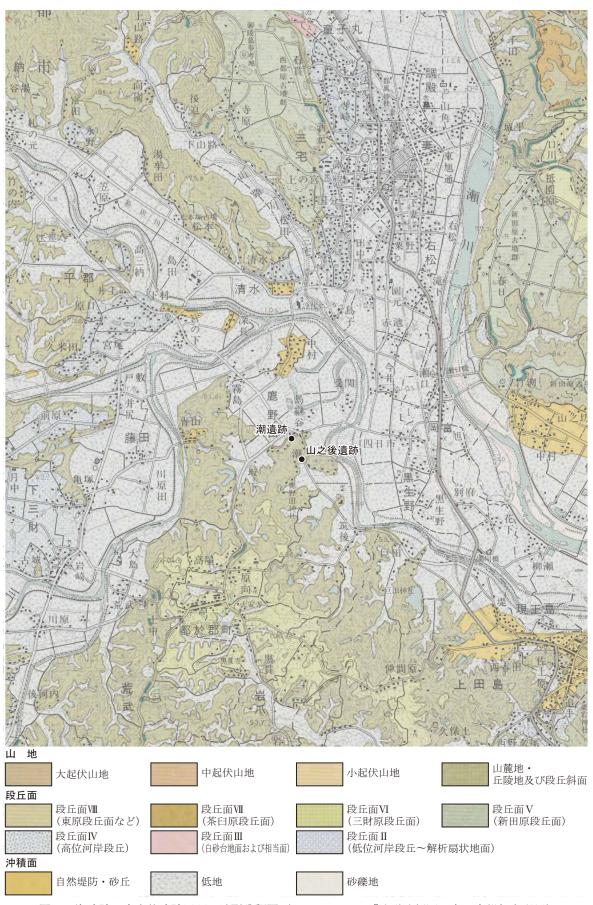


図 1 潮遺跡・山之後遺跡周辺の地形分類図 (S = 1/50,000、『地形分類図 妻・高鍋』を利用)

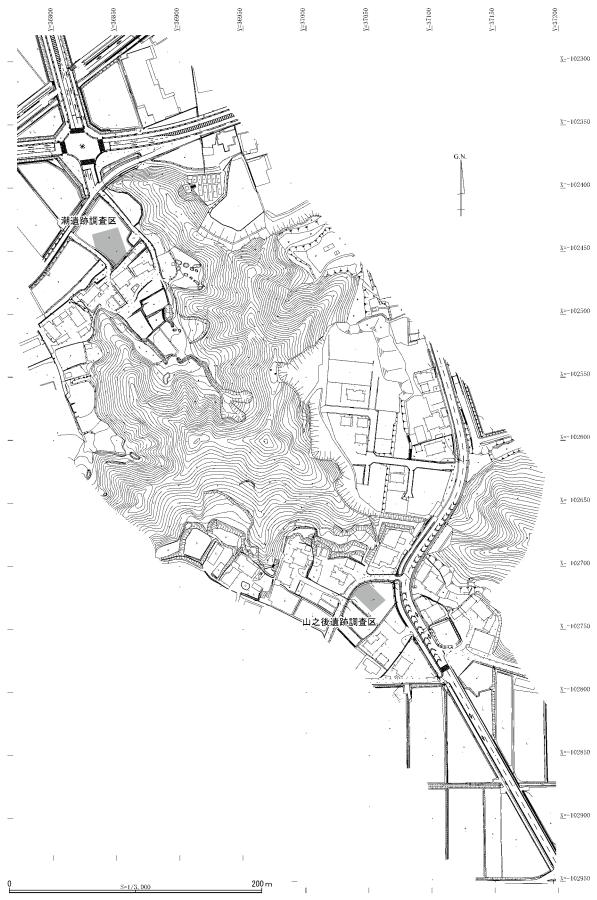


図2 潮遺跡・山之後遺跡周辺地形図 (S = 1/3,000)

洪水等により河川が氾濫した際には、広い範囲で冠水するような氾濫原である。このような低地に位置し、また、周辺は水田として利用されていることからもわかるように、両遺跡ともに基本的に粘土質の土で排水が悪い。調査中も周辺の耕作地では降雨後は数日水が溜まったままの状態であることがあった。台地から延びる丘陵の北側に位置する潮遺跡は陽当たりが悪く、調査中も多くの時間で日陰となっていた。調査により想定される旧地形も谷部の出口付近であり、住環境としては適した環境とはいえなかったようである。一方の山之後遺跡は、丘陵の南側裾に位置し、また地形的にも南に開いているため、一日を通して陽当たりはよく、住環境としては潮遺跡よりも適している。ただし、後で述べるように、山之後遺跡の調査区の土層は粘土層であり、古くは低湿地的な自然環境であったようである。

#### 第2節 遺跡周辺の歴史的環境

#### 旧石器時代

西都市内で旧石器が確認された遺跡としては、これまでのところ、別府原遺跡・別府原第2遺跡・宮ノ東遺跡(宮崎県埋蔵文化財センター2002・2008)が知られている。別府原遺跡では、AT下位から石器が出土しており、西都市内でも最も古い時期の遺物となる。また、同遺跡では遺物だけでなく、AT下位から礫群などの遺構も確認されている。この別府原遺跡を含むその他の遺跡では、AT層上位の遺物や遺物も確認されている。

このように市内の遺跡は少ないが、東隣の新富町等では、東九州自動車道の建設に伴う発掘調査により、旧石器時代の遺跡が多くみつかっている。また、西都市在住であった故大野寅夫氏により採集された旧石器時代のものと考えられる遺物の採集地点は、市内18箇所に及んでいる(西都市2016)。このような資料や周辺の状況から、西都市内において今後も当該時期の遺跡は増えていくものと考えられ、潮遺跡・山之後遺跡付近の地域においても、2万年以上前から人々が広く活動していたのは確かである。

#### 縄文時代

西都市内では、早期前半の貝殻文円筒土器や押型文土器が鴨目原遺跡や丸山遺跡(西都市教育委員会 1989・1996・2006)において確認されているが、それよりも古い草創期の遺跡は未だ知られていない。早期に続く前期においても、若干の遺跡が確認されているが、その後の中期に属する遺跡はまだみつかっていない。後期・晩期においても、他の地域では遺物が多く出土しているものの、西都市内においてそれほど数は多くない。県内において、草創期以降多くの遺跡が確認されている状況とは対照的である。旧石器時代と同様に、新富町側ではこの時期の遺跡が多く確認できることから、調査がまだ及んでいないことが理由であり、今後の調査により次第に遺跡が増えていくことが予想される。

#### 弥生時代

西都市内の弥生時代の遺跡は、県内の他の地域と同じく前期のものはほとんどないため、その様相は明らかではない。一方、中期では徐々に遺跡が増えていく。その中でも代表的なものとしては、環濠の可能性がある溝を有する下尾筋遺跡(西都市教育委員会 1990)や松本原遺跡(西都市教育委員会 2016)、いわゆる「花弁状住居」とよばれる間仕切りを有する竪穴住居(中期末頃)がみつかった緑ヶ丘遺跡(西都市 2015)などがある。特に松本原遺跡では、中期中頃以降、外来系の土器などが多く出土している。このような集落でみつかる道具は石器が多く、鉄器の出土が少ないのは県内各地の状況と共通しており、古墳時代の新立遺跡においても石包丁が使用されている(西都



図3 潮遺跡・山之後遺跡周辺の主要遺跡分布図 (S = 1/50,000)

表 1 潮遺跡・山之後遺跡周辺の主要遺跡

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生			中世
1	潮遺跡				0	0	0	20	寺原遺跡			0	0			39	前原古墳群				0		
2	山之後遺跡					$\triangle$	0	21	妻北遺跡群			0	$\circ$	0		40	前原遺跡			0			
3	串木遺跡			0				22	日向国府跡					0		41	亀塚古墳群				0		
4	上江横穴墓群				0			23	酒元遺跡				0			42	城平						0
5	囲横穴墓				0			24	原口遺跡		0	0		0		43	川床遺跡			0	0		
6	千畑古墳				0			25	伝日向国分尼寺跡					0		44	祇園原遺跡		0	0	0		
7	千畑横穴墓群				0			26	上宮遺跡			0		0		45	新田原古墳群				0		
8	穂北城跡						0	27	日向国分寺跡					0		46	向原第1遺跡	0	0	0			
9	茶臼原古墳群				0			28	下尾筋遺跡			0				47	八幡上遺跡			0	0		
10	千田城跡						0	29	次郎左右衞門遺跡						0	48	銀代ヶ迫遺跡			0	0		
11	宝財原遺跡		0					30	寺山遺跡		0	0				49	藤山第1遺跡	0	0				
12	丸山遺跡		0	0				31	清水古墳群				0			50	有峯城跡						0
13	西都原古墳群				0			32	松本原遺跡		0	0	0			51	宮ノ東遺跡	0		0	0	0	
14	西都原西遺跡					0		33	松本古墳群				0			52	山ノ坊古墳群				0		
15	新立遺跡				0			34	松本塚古墳				0			53	竹淵C遺跡				0	0	0
16	西都原遺跡			0				35	百塚原古墳群				0			54	都於郡城跡						0
17	男狭穂塚古墳				0			36	永野古墳群				0			55	別府原第2遺跡	0					
18	女狭穂塚古墳				0			37	鴨目原遺跡		0					56	別府原遺跡	0	0				
19	鬼ノ窟古墳				0			38	平郡古墳群				0			57	平田迫遺跡				0	0	0

※番号は図3の分布図に対応

市 2016)。生業については、石包丁も出土しているが、どの程度の稲作がどの程度の比率を占めていたのかは明らかでない。このような生活址の調査がある一方で、墓跡はほとんど見つかっていない。

#### 古墳時代

弥生時代の間は少なかった遺跡の数も、古墳時代になると非常に多くなるが、そのほとんどは前 方後円墳を中心とする古墳群である。市内では、九州でも最大級の古墳である男狭穂塚古墳・女狭 穂塚古墳が築かれており、古墳時代の中期前半頃には一つの政治的な中心地としての役割を担って いたことは確かである。このほか、百塚原古墳群からは、国宝の金銅装馬具が出土したとされてい る。それ以外にも図3の分布図にみるように台地上には多くの古墳群をみることができる。このよ うな古墳群の中にあって、西都原古墳群は質・量ともに代表的な古墳群であり、前半期を中心とし ながらも古墳時代のほぼ全期間を通して古墳が築かれている。

図3にみるように、多くの古墳が知られている一方で、当時生活していた人々の実際の様子がわかるような集落遺跡はあまり知られていない。その中にあって、新立遺跡(西都市教育委員会1992)・松本原遺跡・宮ノ東遺跡では、竪穴住居跡等が多数みつかっており、松本原遺跡や宮ノ東遺跡の後期の住居跡では土器埋設炉など南部九州に特徴的な施設が確認されている。

#### 古代

古代には、西都市内に地方行政の拠点である国府が置かれ、およそ8世紀~10世紀までの200年の間続いている。また、国家的な宗教となった仏教の寺院として、国分寺と国分尼寺が設置されたが、この二寺も西都市内にあったと考えられている。このように地方の政治・宗教の中心的施設が位置しているように、現在の西都市街地付近が古代の日向国の社会における中心的な役割を担っていた。その一方で、現在のところ、上記の日向国府を含む妻北遺跡群・国分寺などの官営施設やその周辺の遺跡を除くと、当該時期の遺跡は比較的少ない。主立った遺跡としては、竪穴建物跡・掘立柱建物跡が多くみつかった西都原西遺跡や宮ノ東遺跡が知られている。このほか、西都市外に

なるが、南に位置する宮崎市佐土原町の平田迫遺跡(宮崎県埋蔵文化財センター 2000)では、石帯や須恵器、瓦などが出土している。また、同じく佐土原町内には、国府に須恵器や瓦を供給したと考えられる下村窯跡群(佐土原町教育委員会 1996・宮崎市教育委員会 2008)などがあり、三財川の南岸地域には官営施設に関係するような遺跡が点在している。

#### 中世

中世社会の様相は、その大部分は文献資料によっているが、その中にあって考古学的には、中世の遺跡は主に山城として確認されている。西都市内では、中世の日向一帯を支配した伊東氏の本城である都於郡城跡(西都市教育委員会 2015)を最初にあげることができる。調査によって空堀や土塁、柱穴群などの多くの遺構が検出されており、城の構造などが明らかになっている。また、15世紀後半~16世紀前半頃の河南三彩貼付文壺をはじめとして、多くの輸入磁器類が出土しており、南方貿易が盛んであったことを示している。

都於郡城跡の他にも、代表的なものとして文献史料にも現れる穂北城跡や三納城などがある。この2つの城跡は発掘調査がおこなわれており、掘立柱建物跡等の遺構や、輸入陶磁器類を初めとする多彩な遺物がみつかっている。

#### 引用・参考文献

西都市 2015 『西都市史 資料編』

西都市 2016『西都市史 通史編』

西都市教育委員会 1986 『西都市·遺跡詳細分布調査報告所』

西都市教育委員会 1989『鴨目原遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集

西都市教育委員会 1990『上尾筋遺跡 下尾筋遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集

西都市教育委員会 1992『新立遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

西都市教育委員会 1996『西都原地区遺跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

西都市教育委員会 2006『西都原地区遺跡Ⅱ』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第44集

西都市教育委員会 2015 『国指定史跡 都於郡城跡』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第67集

西都市教育委員会 2016『西都原古墳軍研究所・年報 第30号 - 松本原遺跡(松本原台地編)- 』西都 市埋蔵文化財発掘調査報告書第70集

佐土原町教育委員会 1996『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』

長岡信治・西山賢一・井上弦 2010「過去200万年間における宮崎平野の地層形成と陸化プロセス - 海面変化とテクトニクスに関連して - 」『地学雑誌』119号(4)、632-667頁

宮崎県 1982『土地分類基本調査 妻・高鍋地域』宮崎県農政水産部振興課

宮崎県 1998『宮崎県史 通史編 中世』

宮崎県西都土木事務所 2005『一ッ瀬川百科』

(PDF 版 www.pref.miyazaki.lg.jp/kasen/shakaikiban/kasen/hitotsusehyakka.html)

宮崎県埋蔵文化財センター 2000『平田迫遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第29集

宮崎県埋蔵文化財センター 2002『別府原遺跡 西ヶ迫遺跡 別府原第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第61集

宮崎県埋蔵文化財センター 2008『宮ノ東遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第173集

宮崎市教育委員会 2008『下村窯跡群報告書Ⅱ〈遺物編〉』

宮崎地質研究会編 2013『宮崎県の地質フィールドガイド』、コロナ社

# 第3章 潮遺跡の調査成果

## 第1節 基本層序

調査区内の基本層序は次の通りである。

I 層:表土 (耕作土)

Ⅱ層:灰~黄色細粒砂質粘土層

Ⅲ層:灰色粘土層

IV層:暗褐色粘土層(遺物包含層) V層:黄色粘土層(遺構検出面)

上記のとおり、表土を除くいずれの層も粘土を基本とする土である。  $\Pi \sim \Pi$  層は還元色を呈しており、後世の水田耕作などに伴う粘土層であると思われる。  $\mathbb{N}$  層は遺物包含層で、上下の層に比べ



図4 潮遺跡調査区設定および遺構分布図 (S = 1/200)

るとやや黒味を帯びて暗褐色を呈している。その下のV層は、明るい黄色の粘土層である。土層の 色調や様子などから、IV層が堆積する前後の時期において、それぞれ自然環境あるいは土地利用の 変化があったことが考えられる。

#### 第2節 検出遺構

潮遺跡の調査において検出した遺構として、土坑6基、溝状遺構3条がある。その他に、人の手による遺構ではないが、自然流路および甌穴を検出している。

#### (1) 土坑(図5)

基本土層 V 層上面において、5 基検出している。

#### 土坑 1

調査区の南部で検出した遺構で、大きさは検出面で長軸 1.63 m、短軸 1.06 mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは 5 cmと非常に浅く、上部の大部分は既に削平されていると考えられる。土坑内からは炭や土器片が出土しており、様相は土坑 2 に類似していることから、土器焼成土坑の可能性がある。遺物としては、土師質土器の細片のほか、検出面および埋土中から須恵器坏蓋(図13-24・25)が出土している。坏蓋は流れ込みと考えられるため、土坑の時期は不明であるが、雰囲気は土坑 2 に類似しているため、比較的近い時期のものと思われる。調査時の略号は「S1」である。

#### 土坑2

調査区中央の西側の3B区北側で検出した遺構で、大きさは検出面でおよそ1.75~1.85 mの円形を呈する。調査中の指示不足で、深く掘りすぎているが、土層を見る限りでは、検出面からの深さはおよそ12cmである。遺物の出土状況や底部付近の土に炭を多く含んでおり、焼成土坑の可能性がある。焼成土坑の場合、自然流路2は近接した位置にあるため、両者が併存していたとは考えにくい。自然流路および甌穴の埋土には土師器や須恵器の細片が含まれることから、流路の方が新しいと考えられる。遺物は、土師器が多く出土している。時期は、土器の形態から7世紀前半頃と思われる。調査時の略号は「S2」である。

#### 土坑3

調査区の中央付近の2B区南側で検出した遺構で、大きさは検出面で長軸1.10 m、短軸0.94 m の楕円形を呈する。検出面からの深さはおよそ14cmと浅い。遺物は埋土中から土器の細片(図13-13)が出土しているが、時期は不明である。調査時の略号は「S8」である。

#### 土坑4

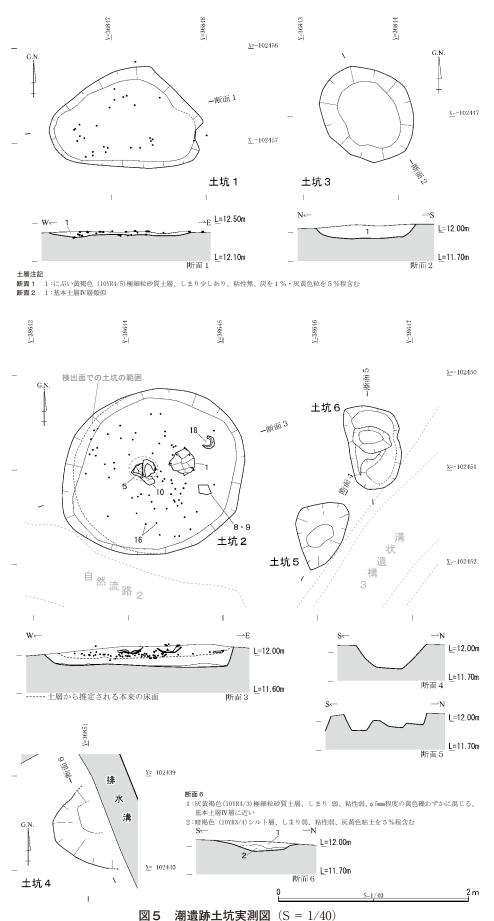
調査区北東部の1 C区の南西端で検出した遺構で、東側半分は調査区外に広がっている。大きさは検出面で南北長 0.88 m、検出面からの深さはおよそ 14 cmで、他の土坑と同じく浅い。遺物は出土しておらず、時期は不明である。なお、調査時の略号は「S7」である。

#### 土坑5

調査区中央付近の 3 B区北側で検出した遺構で、土坑  $2\cdot 6$  に隣接している。大きさは検出面で長さ 0.77 m、幅 0.54 mの隅丸三角形状を呈する。検出面からの深さはおよそ 25 cmと、他の土坑に比べるとやや深い。遺物は出土していないが、溝状遺構 3 を切っているため、それよりも新しい時期の遺構である。調査時の略号は「S5」である。

#### 十坑6

調査区中央付近の3B区北側で検出した遺構で、土坑5に隣接しており、土坑5と同じく溝状遺



構3を切ってい る。大きさは検 出面で長さ 0.88 幅 0.56 m で、平面形は隅 丸長方形状を呈 する。検出面か らの深さはおよ そ17 cm で、底 面には凹凸がみ られる。遺物は 出土していない が、溝状遺構3 を切っているた め、新しい時期 のものであると 考えられる。調 査時の略号は [S4] である。

#### (2) 溝状遺構

調査区南部を 中心にして、北 東 - 南西方向の 向きに延びる3 条の溝状遺構を 検出している。

#### 溝状遺構1

調査区の南東部、2~3 B区の南東部、2~3 B区の南東部、2~3 B区の市域の地域のでははるのではははない。 横区のでのはは1.90 m以のはは1.90 mののははは1.90 mののはははい。遺物はははい。遺物はははい。遺物は

出土していない。調査時の略号は「SE1」である。

#### 溝状遺構2

調査区の南側、 $3B\sim C$ 区で検出した東西に延びる溝で、自然流路1・甌穴3を切っている。検出面での長さ $2.83\,\mathrm{m}$ 、幅 $0.60\,\mathrm{m}$ の大きさで、検出面からの深さは約 $6\,\mathrm{cm}$ ときわめて浅い。遺物は出土していない。調査時の略号は「SE4」である。

#### 溝状遺構3

調査区の中央付近、 $2C\sim3$  B区にかけて検出した遺構で、両端はそれぞれ調査区外に延びている。幅は1 m前後、検出面からの深さは $12\sim27$ cmと幅があり、西半が深くなっている。また、西側の埋土は東側と異なり、灰色粘土ブロックが混じっているため、掘り直し、あるいは埋め戻して

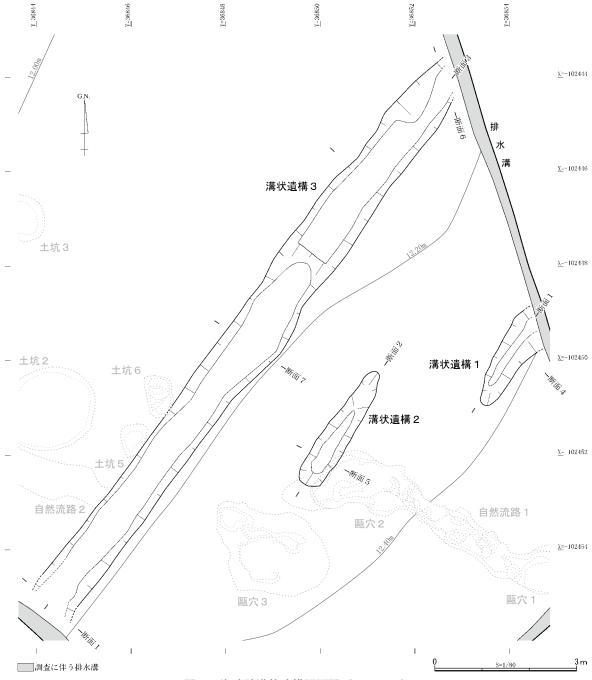
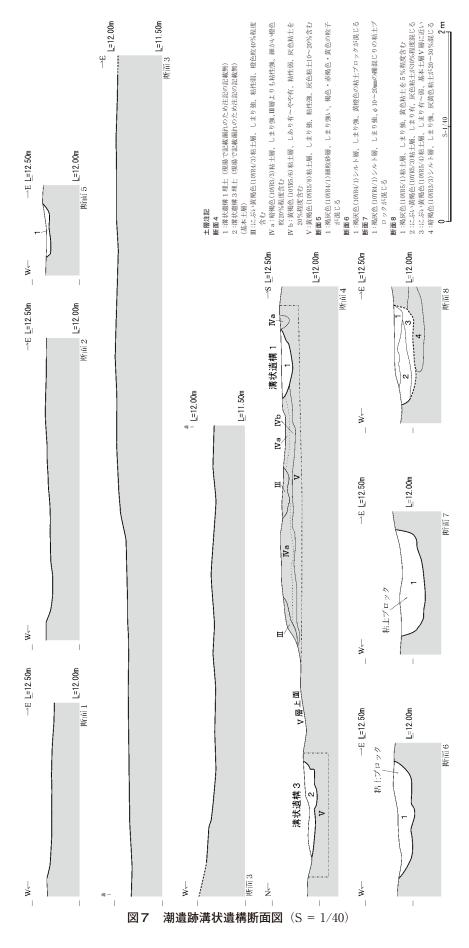


図 6 潮遺跡溝状遺構平面図 (S = 1/80)



いる可能性がある。遺物は土器の細片が出土しているが、時期はあきらかでない。調査時の略号は「SE2」である。

### (3) 自然流路・甌穴

調査区の南部から東 部において、溝状の凹 みとその途中に土坑状 の深い落ち込みを検 出している。当初は粘 土採掘のための遺構で ある可能性を考慮した が、流路の屈曲点に土 坑状の落ち込みがみら れる構造に類似した地 形が、山側の谷筋にお いて観察された。その ため、これらの凹みと 落ち込みは人為的な遺 構ではなく、谷筋の自 然流路とその中に形成 された甌穴であると判 断した。

#### 自然流路 1

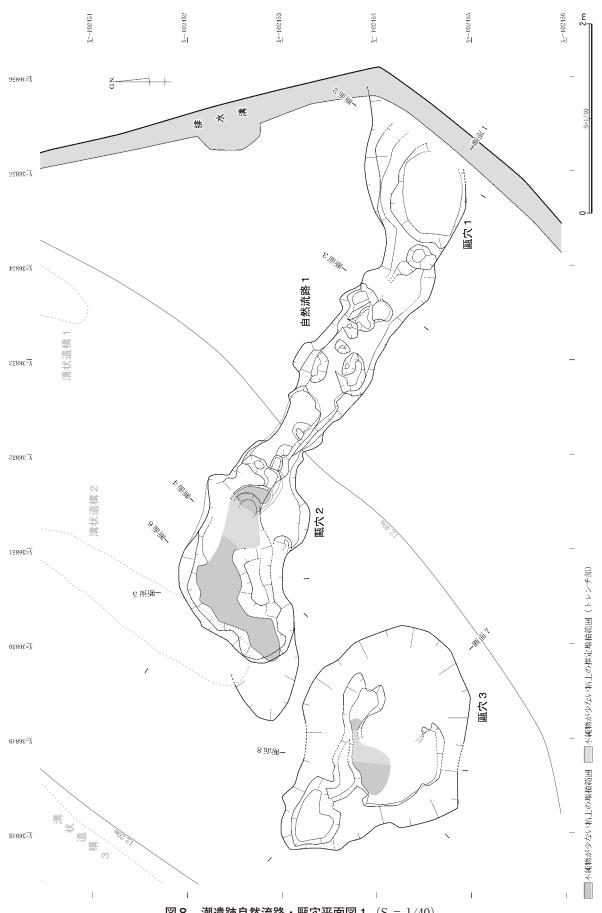


図8 潮遺跡自然流路・甌穴平面図1 (S = 1/40)

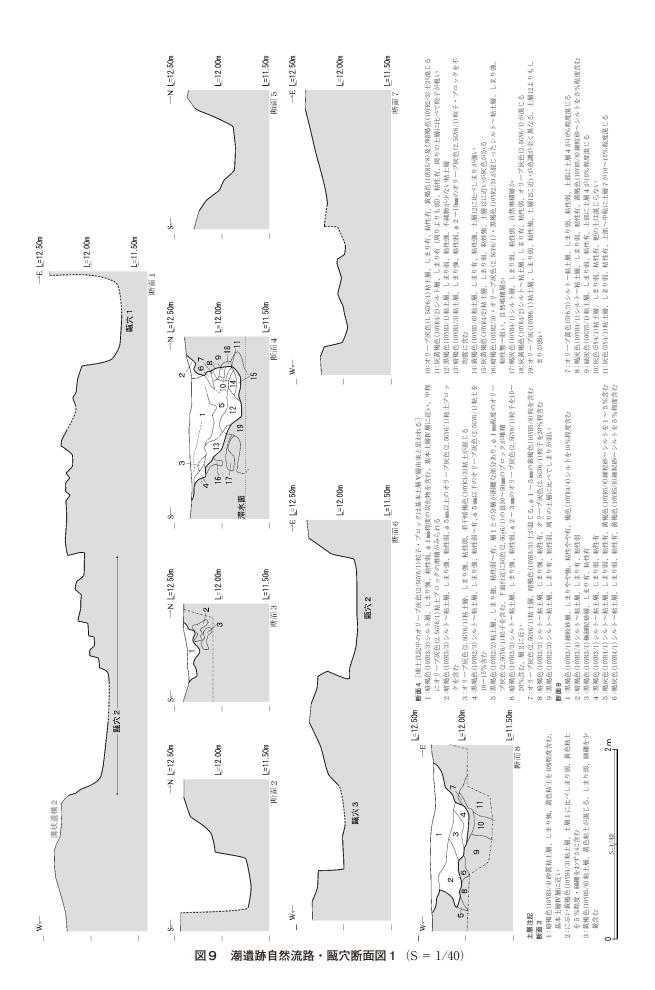




図 10 潮遺跡自然流路・甌穴平面図 2 (S = 1/50)

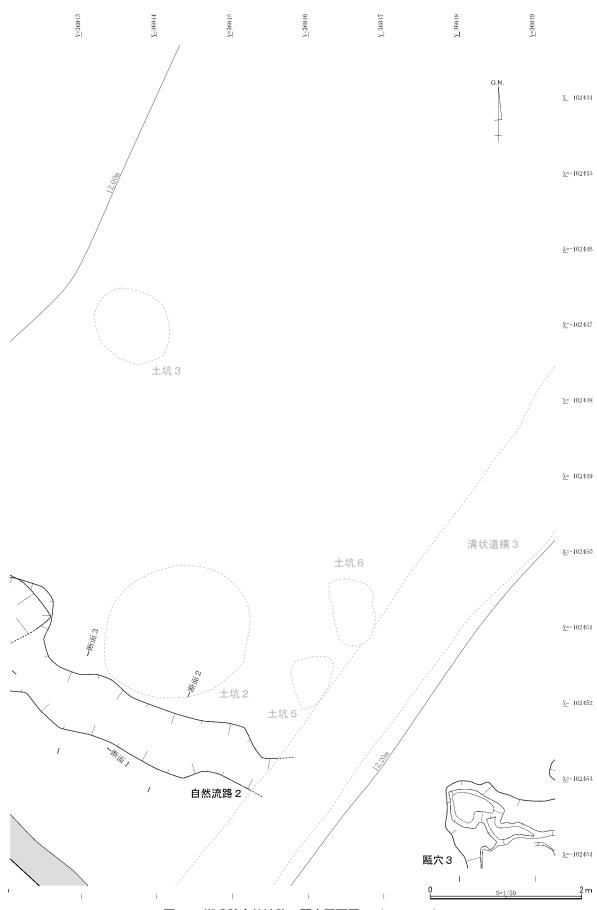
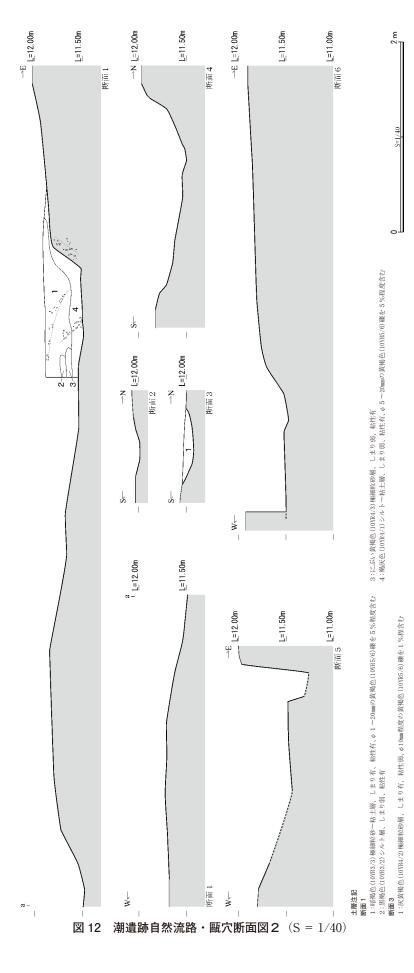


図 11 潮遺跡自然流路・甌穴平面図 3 (S = 1/50)



およそ6cm、甌穴部の深い所で 70cm程である。甌穴1・2の間 の浅い部分は、平坦ではなく凹 凸がみられる。甌穴底部でみら れる粘土は、この浅い溝の部分 では確認できなかった。また、 流路の流れは北方向と思われる が、短い溝部分の傾斜は南側が 低くなっている。本流路は、甌 穴2の途中から向きを変えて西 側へ延びており、本来はそのま ま甌穴3につながっていたもの と思われる。遺物は土師器や須 恵器片(図13・31・32)が出 土しているが、細片が多く図化 できるものは少ない。調査時の 略号は「SE3」である。

### 自然流路2

調査区の東部で検出した流路 で、南から北方向へと延びてお り、甌穴4・5と浅い溝で構成 されている。また、甌穴4の 南側では幅 0.45 ~ 0.80 mと狭 かった溝が、甌穴4の付近から 幅が広くなっている。甌穴部を 除いた部分は浅く、特に北側で は検出面の直下が底部となって おり、上部は削平されていると 考えられる。また、流路1とは 異なり底面の凹凸は少なく、横 断面形も比較的緩やかな傾斜を 示している。流路の向きなどか ら、本来は甌穴3を経由して自 然流路1につながっており、ク ランク状に屈曲した一連の流路 であったと考えられる。調査時 の略号は「S6」である。

#### 甌穴 1

自然流路1の南端に位置する 土坑状の凹みで、大きさは上面 で長さ  $0.80 \,\mathrm{m以上}$ 、幅  $0.81 \,\mathrm{m}$ 、深さはおよそ  $70 \,\mathrm{cm}$ である。調査時の略号は、自然流路  $1 \,\mathrm{om}$  として調査したため「SE3」である。

#### 甌穴2

自然流路 1 の北橋に位置する土坑状の凹みで、大きさは上面で東西の長さ約  $2.60~\mathrm{m}$ 、幅は南側の浅く狭い部分で  $0.32\sim0.45~\mathrm{m}$ 、北側の広く深い部分で  $1.35~\mathrm{m}$ 程で、深さはおよそ  $55~\mathrm{cm}$ である。底面付近には青灰色の還元色を呈する粘土の単層がみられる。調査時の略号は、自然流路 1 の一部として調査したため「SE3」である。

#### 甌穴3

甌穴2の西側に位置する土坑状の凹みで、大きさは上面で長さ約 $2.70 \,\mathrm{m}$ 、幅が約 $2.03 \,\mathrm{m}$ 、中央の落ち込み部分の上端で長さ約 $1.90 \,\mathrm{m}$ 、幅約 $1.38 \,\mathrm{m}$ である。深さはおよそ $40 \,\mathrm{cm}$ で、甌穴 $2 \,\mathrm{cm}$  様に底面付近には粘土の単層がみられる。調査時の略号は「S3」である。

#### 甌穴4

自然流路 2 の南側に位置する土坑状の凹みで、上面で長さが約 4.05 m、幅が約 2.10 mで、南側が低くなっており、深さはおよそ 50 cmである。南端部は長さ約 0.70 m、幅約 1.00 mの範囲で、一段深くなっており、この部分の深さは検出面からおよそ 70 cmである。

これまでの甌穴とは異なり、自然流路の進路はほとんど変わらずに北側に延びている。他の甌穴でみられるような攻撃壁と思われる抉りも顕著ではない。なお、本甌穴の底面から木製品(図 14-37)が出土している。調査時の略号は自然流路一部として調査したため「S6」である。

#### 甌穴5

自然流路 2 の北側に位置する土坑状の凹みで、西側調査区外へと延びている。大きさは、調査区内の範囲で長さ約  $1.85\,\mathrm{m}$  、幅  $1.85\,\mathrm{m}$  で、深さは約  $45\,\mathrm{cm}$  である。他の甌穴に比べると傾斜は緩やかである。調査時の略号は自然流路一部として調査したため「S6」である。

#### 第3節 出土遺物

#### (1) 土器類 (図13)

 $1 \sim 20$  は土師器で、その多くが土坑 2 からの出土である。 1 は長胴気味の甕で、口径は胴部最大径よりも小さく、口縁は短く外反する。内面に粘土紐の接合痕を残す。 2 も 1 に類似した形態をもつ甕であるが、 1 は口縁部付近が完存に近い状態であることから別個体である。 3 ・ 4 は口縁部付近の小片であるが、「く」字状に短く屈曲しており、古手の様相を示す。 5 はバケツ状に開く形態の甕である。底部は明瞭な平底で、口縁は緩やかに開く。 6 ・ 7 はゆるかに開く形態をもつ甕の口縁部と思われる破片である。 8 ・ 9 は同一個体と思われる甕の破片で、注口を有する。 5 に似たようなバケツ状に開く形態と思われるが、底部内面はやや丸みを帯びる。 10 は底部付近と思われる胴部の破片である。 11 ~ 14 は底部破片である。

 $15 \sim 20$  は坏で、 $15 \cdot 18$  は口縁部がわずかであるが外反している。

 $21 \sim 23$  は土師質土器の底部で、21 は高台が付く。23 は底部外周に粘土が付着して高台状を呈している。

 $24 \sim 32$  は須恵器で、遺構外出土のものが多い。 $24 \sim 27$  は坏蓋で、 $24 \cdot 25 \cdot 27$  は口縁部端部が短く屈曲している。 $24 \cdot 25$  は同一個体と思われるが、歪んでいるためか、形状が若干異なる。26 は摘みの破片で、 $24 \cdot 25$  と同一個体の可能性がある。 $28 \sim 32$  は大型の甕の胴部と思われる破片である。

33・34 は磁器で、いずれも表土出土である。33 は龍泉窯系の青磁で、外面に連弁文がみられる。34 は青花と思われる破片で、内面に圏線がみられる。外面にも文様がみられるが、細片のため全容は不明である。

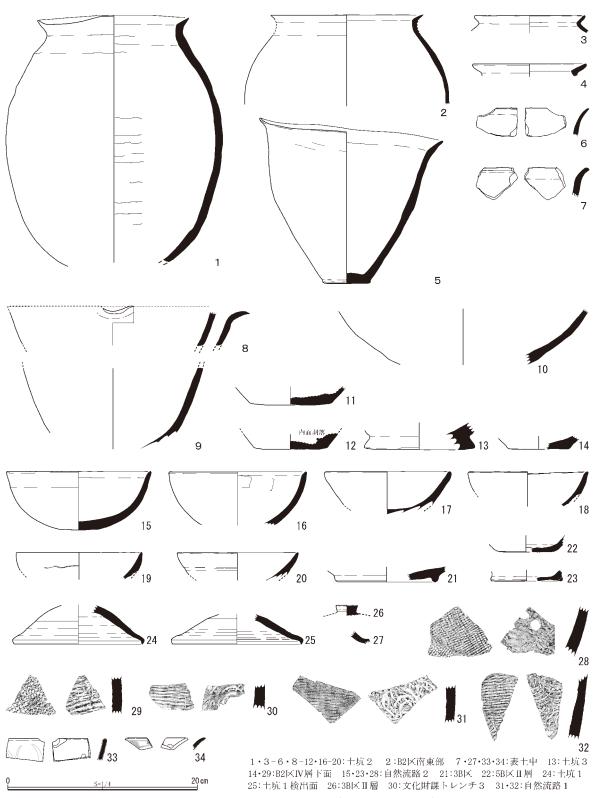


図 13 潮遺跡出土遺物実測図 1 (土器類 S = 1/4)

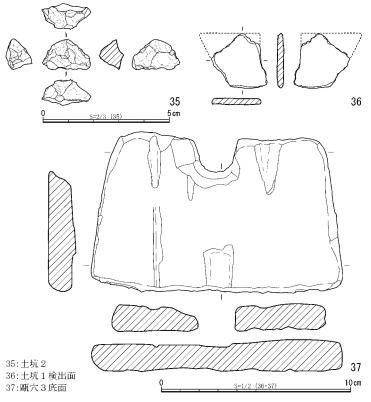


図14 潮遺跡出土遺物実測図2 (石器・鉄器・木製品)

(2) 石器・鉄器・木製品 (図14) 35 はチャート製の火打ち石と考 えられる石器で、稜線に使用によ ると思われるツブレがみられる。 大きさは長さ1.21cm、幅1.89cm、 厚さ1.03cmで、重さは2.29gで ある。36は鉄片で器種は不明であ る。大きさは長さ2.90cm、幅3.00 cm、厚さ0.40cmで、重さは7.10 gである。37は台形状を呈する木 製品で、欠損はみられないため完 形品と思われる。側面に加工痕が 確認できるが、用途は不明である。 正面・裏面には特に加工はみら れない。大きさは長さ8.6 cm、幅 13.3 cm、厚さ1.7 cmで、図上辺の 中央付近に長さ1.7cm、幅2.3cm 程の抉りが入っている。

### 第4節 遺構と遺物の検討

潮遺跡で検出した遺構は、土坑2を除くとその時期は不明である。土坑2については、焼成土坑の可能性があることや、自然流路との位置関係および出土遺物から、自然流路が土坑2の後に形成されたものと考えられる。自然流路内の甌穴については、流路が斜面の崩壊などによってその進路を妨げられた際に発生する傾向にあることから、自然流路の東側には、南側の丘陵が現在よりも北側まで延びていたことを想定することができる。南側から丘陵が延びていたと仮定すると、溝状遺構はいずれも尾根があったと考えられる箇所に位置している事となる。自然流路および甌穴内からは、土師器あるいは土師質土器の細片や須恵器の細片は出土しているものの、陶磁器類はほとんど出土していない。丘陵が削平された時期は明らかではないが、中世の遺物はほとんど出土していない状況、および南側の丘陵裾付近では試掘調査の際に近世以降の土器が多く確認されていることから、近世以降と思われる。

次に土坑2から出土している遺物についてであるが、形がわかるものとしては甕や坏などが出土している。以下では今塩屋・松永編年(今塩屋・松永2002)を参照しながらその帰属時期について考えてみる。図13 - 1の甕は、口径は胴部最大径よりも小さく、口縁は短く外反するが、内面に稜は形成していない。底部は欠失しているが、大きさ的には小型甕に該当すると考えられる。編年図上では、小型長胴甕 A1 型式あるいは小型球形甕 A3 もしくは A4 型式に該当するものと思われ、編年の7~8 期に該当すると考えられる。次に図13 - 5 は、バケツ状に口縁が大きく開く特徴的な形の甕で、このような甕は、今塩屋・松永編年の7 期頃に出現するようである。編年図を参照すると、7 期に位置付けてある Ca1 型式は「頸部のしまりがなく、口縁部は大きく外反して底部は平底」とされ、8 期に位置付けてある Ca2 型式は「口縁部は端部がわずかに外反」し、「木葉底を有する脚台状の底部がつく」とされる。図13 - 5 は比較的直線的な胴部や底部がわずかに脚台状を呈す

るため、8期のCa2に近い形態と考えられる。

最後に破片であるが数量的にやや多く出土している坏についてみてみる。坏は底部が欠損しているものが多いが、図13-15は丸底のようであり、その他のものも径や器高から丸底が想定される。坏類については、今塩屋・松永編年によれば、編年9期には平底化するとされる。また、前段階である編年8期には、口縁端部が外反する「坏 A 類」や内湾する「坏 B 類」よりも、口縁が直立する「坏 C 類」や平底で口縁が直立~外反気味の「坏 D 類」が量的に主流をしめるようになる。図13-15・18は口縁端部がわずかに凹んで「坏 A 類」様を呈しているものの、その他は直立的であり、「坏 C 類」が多くを占めているといえる。このような様相から、坏類は今塩屋・松永編年の8期的な様相ということができる。

以上のような土器の形態から、土坑2の出土遺物は今塩屋・松永編年の8期に該当するものと考えられる。したがって、土坑2は7世紀前半頃の遺構と考えられる。位置的には、土坑2は尾根部にあたると思われるため、段状にカットするなどして土坑を掘り込んでいる可能性があるが、上部が大きく削平されているため不明である。

土坑1については、歪みのためにやや形状が異なっているが、同一個体と思われる坏蓋(図13-24・25)が出土している。口縁端部は「L」字状に短く屈曲している。また、図13-26の摘みも同一個体の可能性があるが、扁平で上部はわずかに凹む形態である。このような形態から、8世紀前半頃のものと考えられる。須恵器は流れ込みであり、土坑も浅く残りが悪いものの他に時期を示すような遺物はないが、7世紀前半~8世紀前半頃の間のものと思われる。位置的には谷底にあたると思われる。

自然流路と甌穴については、埋土中の低いレベルから土師器あるいは土師質土器や須恵器の細片が出土している。上部で陶磁器類などは出土していないため、古代の間に埋没したものと思われる。甌穴3の底面からは木製品が出土しているため、流路は自然のものであるが、当時の人々がこの流路・甌穴を利用していた可能性が考えられる。甌穴の底部には混入物の少ない粘土が堆積しており、粘土の採取を行っていた可能性もある。

以上のように、潮遺跡において、古墳時代の終わり頃から古代にかけての遺構として、土坑1・ 2と自然流路・甌穴があり、その他の溝状遺構や土坑は近世以降の所産であると考えられる。

#### 註

(1)甌穴の形成過程については、当センターの赤崎普及資料課にご教示いただいた。

#### 引用・参考文献

今塩屋毅行・松永幸寿 2002「日向における古墳時代中〜後期の土師器 - 宮崎平野部を中心にして - 」『第5回 九州前方後円墳研究会 古墳時代中・後期の土師器 - その編年と地域性 - 発表要旨資料』、九州前方 後円墳研究会、145-173頁

佐土原町教育委員会 1996『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』、佐土原町教育委員会 宮崎市教育委員会 2008『下村窯跡群報告書Ⅱ〈遺物編〉』

#### 第4章 山之後遺跡の調査成果

#### 第1節 基本層序

山之後遺跡の基本層序は次の通りである。なお、発掘調査時および注記には文化財課が行った試掘調査時の層番号を使用している。そのため、今報告ではII・IV・W層は欠番となっている。

I 層 現代耕作土層 (文化財課確認調査 I 層)

Ⅱ層 客土層 (文化財課確認調査 Ⅱ b層)

V層 灰色砂質粘土層 (文化財課確認調査 V層)

VI層 灰黄褐色粘土層 (文化財課確認調査 VI層)

a・b層に細分。

Ⅲ層 礫混じり暗褐色砂質粘土層 (文化財課確認調査 Ⅲ層)

遺物包含層で、 $a \cdot b \cdot c$  層に細分しているが、b 層が部分的であり、 $a \cdot c$  層の分層が難しいところも多い

IX層 極暗褐色砂質粘土層 (文化財課確認調査 IX層)

上面が遺構検出面

IX層下 灰黄褐色粘土層 (文化財課確認調査 対応層無)

上記のとおり、調査区内の土層は粘土層を基本としているが、IX層以上の層では砂粒を含んだ砂質の粘土層である。IX層下層以下の層は砂礫が少ない粘土層であり、IX層とIX層下層の間に自然環境が若干変化したようである。また、VI・WI層は上下の層と異なり、黒味を帯びた色調を呈している。このことから、今回調査を行った範囲の中においては、IX層下層とIX層、WI層とVI層の間の時期に、自然環境あるいは土地利用の仕方が変化したものと考えられる。

#### 第2節 検出遺構

#### (1) 土坑

調査区の北半部において、土坑は8基検出している。いずれの土坑も区層上面で検出しており、 ™層中で精査を行いつつ掘り下げたものの検出はできなかった。

#### 土坑 1

調査区の中央東壁付近、5 F区の北西部で検出した遺構で、大きさは検出面で長さ 0.78 m、深さはおよそ 8 cmで、東側は調査区外に広がっているため幅と形状は明らかでない。土坑 2 を切っており、土坑 2 よりも新しい。埋土は他の土坑と異なり、

黄褐色ブロック土を多く含む。遺物は土器片が出土しているが、細片のため時期等は不明である。調査時及び注記の略号は「S1」である。

#### 土坑2

調査区の中央東壁付近、5 F区北西部で検出した遺構で、平面形は検出面で長さ 0.81 m、深さ 13~16cmの隅丸長方形状を呈する。土坑1に切られており、検出面での幅は不明である。底面中央付近は、長さ 0.45 m、幅 0.35 m程の範囲で凹んでいる。埋土は W b 層類似土である。遺物は小片が若干出土しているが、詳細

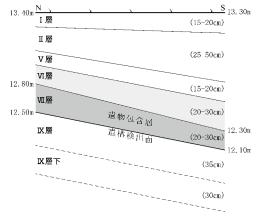


図 15 山之後遺跡土層堆積状況概念図

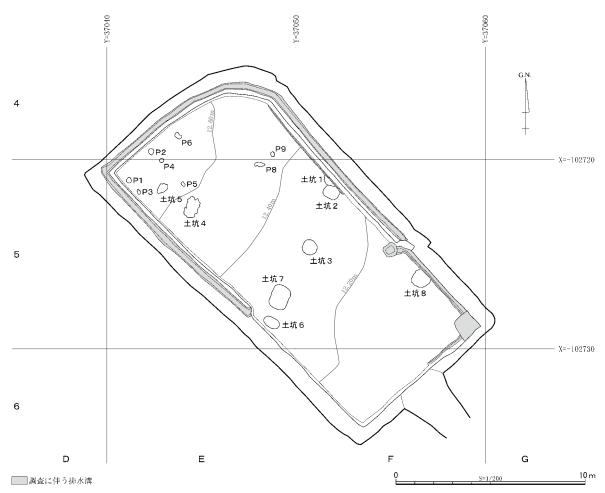


図 16 山之後遺跡調査区設定および遺構分布図 (S = 1/200)

な時期は不明である。調査時及び注記の略号は「S2」である。

#### 土坑3

調査区中央付近、5 F区の西側で検出した土坑で、大きさは検出面で長さ 0.76 m、幅 0.75 mで、平面形は円形状を呈している。埋土は $\mathbb{W}$  b 層類似土である。検出面からの深さはおよそ 16cm と浅い。調査時及び注記の略号は「S3」である。

#### 土坑4

調査区北西部、5 E 区北側で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 1.10 m、幅 0.69 mの不整長方形状を呈する。検出面からの深さは  $11\sim13$  cmである。埋土は 11 a もしくは 11 c 層に類似した土である。調査中はわからなかったが、底部の状況から 11 2 基の土坑が切り合っている可能性もある。遺物は東側の底面付近で、埋置されたと思われる 11 5 点の土師質土器の坏が出土している。出土した土師質土器は、坏 11 2 点(図 11 20 - 11 5 · 6)、小皿 11 3 点(図 11 21 · 11 42 11 44)である。いずれも底部切り離しはヘラ切りである。遺物包含層の 11 2 個層から出土している土師質土器の多くが糸切りであることから、これらの遺物よりも古くなる可能性がある。形態から 11 世紀頃のものと思われる。土器は底面から出土しているが、遺構の大きさや底面の様子から、土壙墓の可能性は低いと考えられる。調査時及び注記の略号は「11 54」である。

#### 土坑5

調査区北西部、5 E区北側で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 0.65 m、幅 0.42 mの不整 三角形状を呈する。他の土坑に比べるとやや小さい。検出面からの深さも約8 cmと浅い。土坑4 に

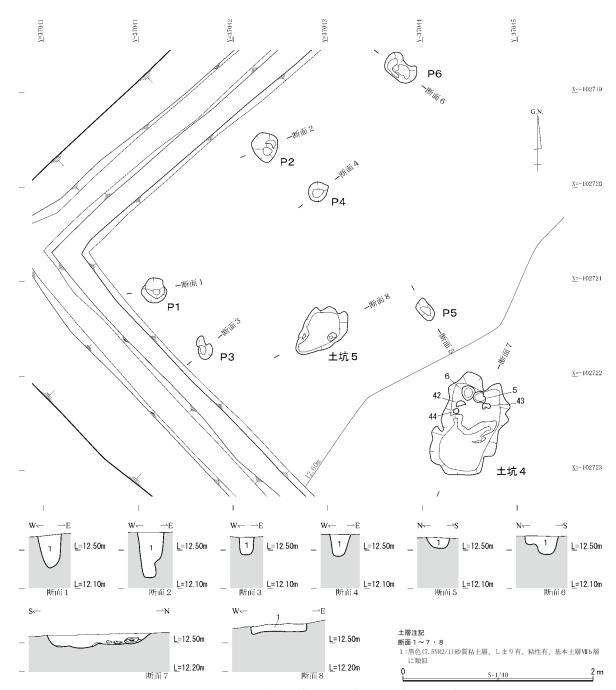


図 17 山之後遺跡検出遺構平面・断面図 1 (S = 1/40)

近接している。埋土はWaもしくはWb層に類似の土である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。調査時及び注記の略号は「S5」である。

#### 土坑6

調査区中央西側、5 E区南東部で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ0.85 m、幅0.51 mの 楕円形状を呈する。検出面からの深さはおよそ6cmと浅いが、南東側はさらに浅くなっている。埋土は $\mathbbm{m}$  b 層に類似の土である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。調査時及び注記の略号は「S6」である。

#### 土坑7

調査区中央西側、5 E区南東部で検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 1.25 m、幅 0.95 mの

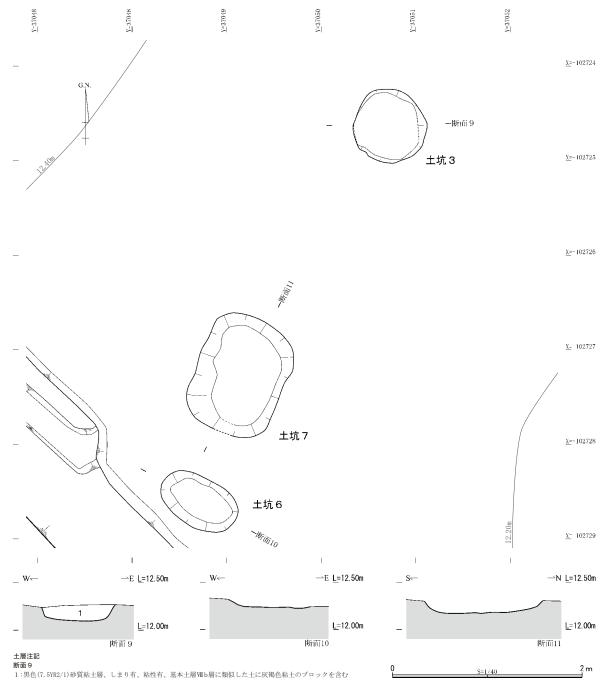


図 18 山之後遺跡検出遺構平面·断面図 2 (S = 1/40)

隅丸長方形状を呈する。検出面からの深さは約13cmである。埋土は $\mbox{$\mathbbmu$}$  c 層に類似した土である。遺物は細片も含めて全く出土していないため、時期は不明である。調査時及び注記の略号は「 $\mbox{$S7$}$ 」である。

#### 土坑8

調査区南東部、5 F区南寄りで検出した土坑で、平面形は検出面で長さ 0.85 m以上、幅 0.93 m の隅丸方形状を呈する。北側は長さ 0.45cm前後、幅 0.32 mの範囲で凹みがみられる。検出面からの深さは約 11cmである。他の土坑とは異なり、本土坑の埋土は還元色を呈する粘土である。また、底面と粘土の間には、中粒砂程の砂層が極薄く堆積しており、一部では粘土と互層状に堆積している箇所もある。このほか、埋土中に X層と思われるブロック土を含む。水の流入と停滞を繰り返し

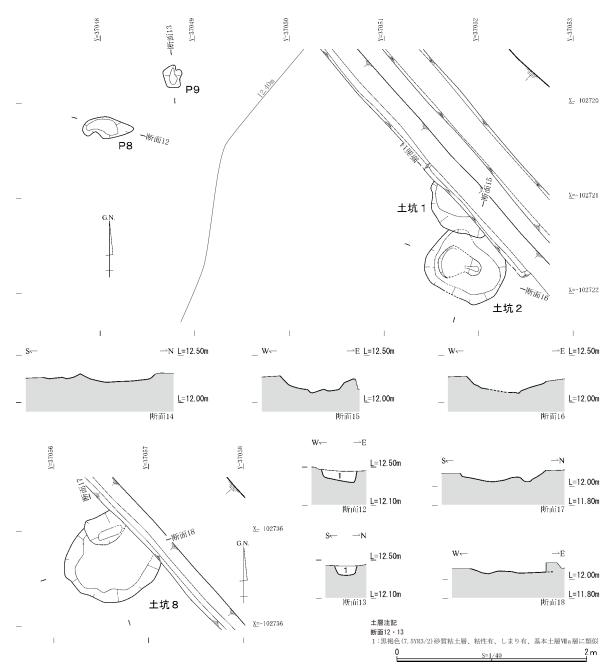


図 19 山之後遺跡検出遺構平面・断面図 3 (S = 1/40)

た結果と考えられ、潮遺跡でみられたような自然の凹みであると考えられる。遺物等は出土していない。埋土中にIX層相当のブロック土を含むが、他の遺構のようなIM層類似の土は全くみられない。また、埋土上部にレンズ状に堆積するような流入土はみられないことから、上部は削平されていると考えられる。調査時及び注記の略号は「S8」である。

#### (2) ピット

調査区内でピットは、8 基 (P1 ~ P7、P9) 検出している。土坑と同じく、 $\mathbb{K}$  層上面で検出しており、  $\mathbb{M}$  層中では確認できなかった。

ピットの多くは径 20cm前後で、検出面からの深さは  $10\sim 20$ cmであるが、 $P1\cdot 2$  はそれぞれ 34cm、47cmと他と比べるとやや深くなっている。埋土は、調査区の北西部に位置する  $P1\sim 6$  がWb 層に

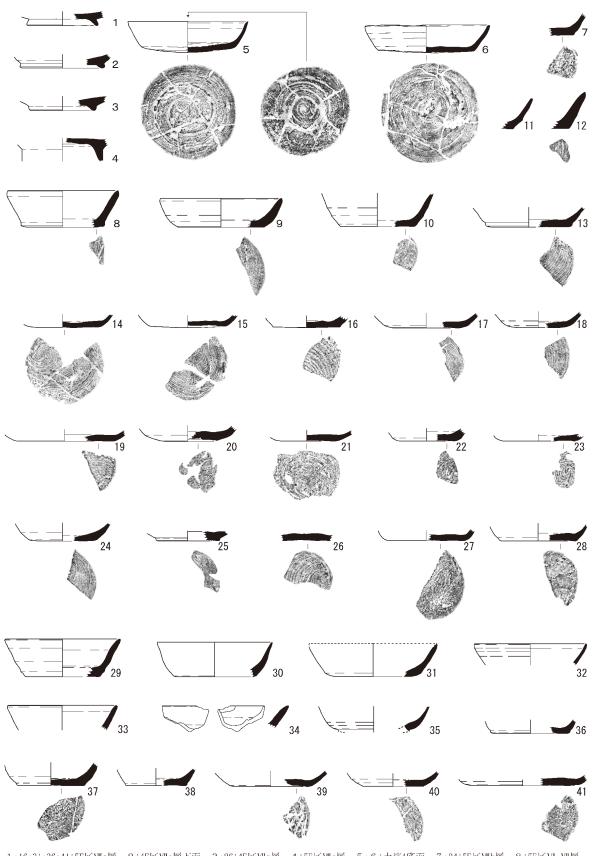
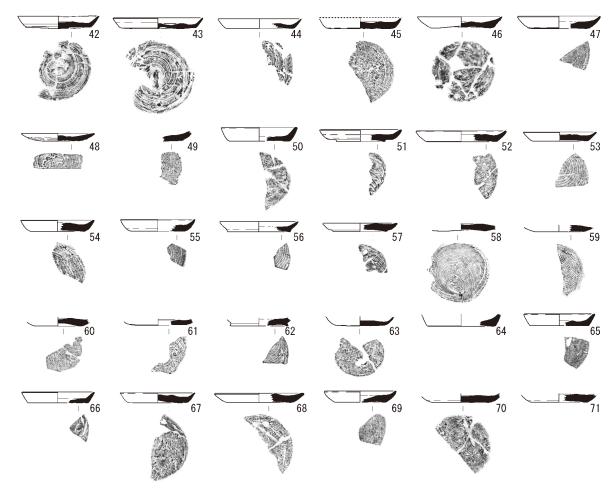


図 20 山之後遺跡出土遺物実測図 1 (土師質土器等、S = 1/4)



42·43·44: 上坑 4 底面 45:5F区VIIb層 46:5F区VIIc層下面 47·58:5F区排水溝 48·61:調査区内 49:4E区VIIc層 50·54:5F区VII-VII層 51:4E区VIIa層 52·58:5E区VIIa層 53·60·66:5F区VIIa層 55·57·62:5F区VIIa-b層 59:4E区VIIb層 63:5E区VIIa-c層 68·71:5E区VIIc層 64:4E区VIIa層 65·70:5F区VIIb-c層 67:5E区VIIc層下面 69:4E区VIIa-b層 0 8-1/4

図 21 山之後遺跡出土遺物実測図 2 (土師質土器等、S = 1/4)

類似した土、これらからやや離れた P8・9 が  $\mathbb{W}$  a 層に類似した土で若干異なっている。これらのピットについて、現地においては、掘立柱建物跡を構成するような並びのものは確認できなかった。しかし、深さや埋土の状況あるいはピット間の距離から、 $P1 \sim P4$  については庇付の掘立柱建物跡を構成する可能性がある。なお、P1 - P2 間、P1 - P3 間、P2 - P4 間の心々間の距離は、それぞれおよそ 1.90 m、0.80 m、0.70 mである。

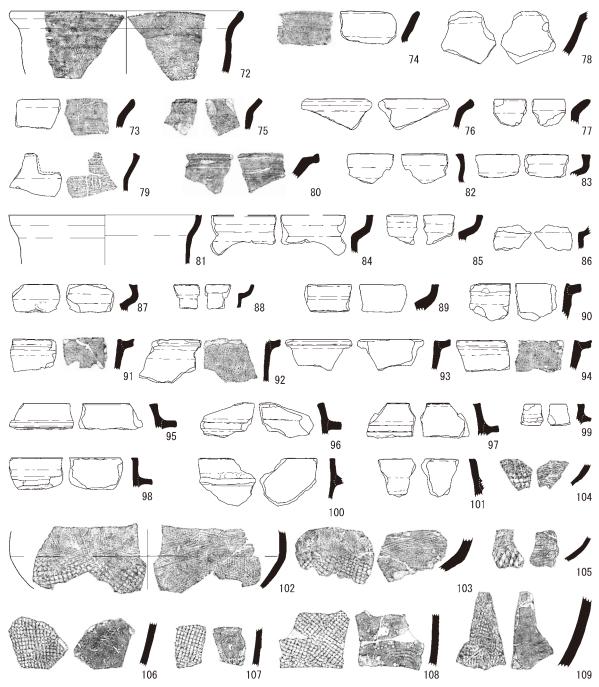
#### 第3節 出土遺物

#### (1) 土器・陶磁器 (図 20~28)

 $1 \sim 3$  は、瓦器椀の可能性がある土器である。1 の内外面は黒色を呈し、ヘラミガキがみとめられる。4 は高い脚台をもつ坏と思われるが、調整や全形が不明である。 $5 \sim 41$  は土師質土器の坏と思われるものである。底部の切り離し技法には、ヘラ切り( $5 \sim 7$ )、糸切り(糸切りの可能性があるものを含む)( $8 \sim 27$ )の両者がみられる。また、 $27 \sim 41$  は欠損や摩耗により不明なものである。5 は内面にも工具痕が残っている。 $10 \cdot 11 \cdot 29 \cdot 35$  は外面に段がみられる。土坑 4 から出土している  $5 \cdot 6$  は、他の坏に比べると器高に対する径の比率が大きい。

 $42 \sim 71$  は土師質土器の小皿である。坏と同様に、底部の切り離し技法には、ヘラ切り(ヘラ切りの可能性があるものを含む)( $41 \sim 49$ )、糸切り(糸切りの可能性があるものを含む)( $50 \sim 63$ )

の両者がある。 $64 \sim 71$  は風化等により不明である。ヘラ切りのものは全体的に底部の凹凸が大きい。  $72 \sim 109$  は瓦質土器の鍋・釜類と思われる破片である。 $72 \sim 78$  は口縁部が「く」字状に開く 形態のもので、内面の頸部稜以下に荒いハケメをもつものが多い。 $79 \cdot 80$  も同様な形態であるが、口縁端部が内面に肥厚している。 $81 \sim 89$  は、頸部で屈曲したのち、内湾しながら上部へ口縁が延 びる形態のものである。 $81 \cdot 84 \cdot 87$  は口縁端面がわずかに凹む。 $90 \sim 94$  は、口縁が逆「L」字 状を呈するものである。 $95 \sim 101$  は、口縁部下の外面に鍔が廻る形態で、釜と思われる破片である。  $102 \sim 109$  は、上記鍋・釜類の胴部片などと思われる破片で、外面底部付近にタタキが施されている。



72:4E[×VIIIb層 73:75:85:96:97:101:5E[×VIIIa層 74:78:93:103:106:5F]×VIIIa層 76:92:98:5F]×VIIIb層 77:5F]×VIIIc層 79:81:5E[×VIIIb]×VIIIa層 80:84:5F]×VIIIb]× 80:84:5F]×VIIIb]× 80:91:00:5E[×VIIIb]× 80:91:00:5E[×VIIIb]× 80:100:5E[×VIIIb]× 80:100:5E[×V

図 22 山之後遺跡出土遺物実測図 3 (瓦質土器等、S = 1/4)

ほとんどが格子目タタキであるが、105のみ異なり縄目状を呈する。また $106 \sim 109$  については、 瓦質土器に似た焼成具合であるが、外面のタタキの雰囲気は須恵器に類似しており、内面に同心円 の当て具痕がわずかに観察できるものもあるので、軟質焼成の須恵器である可能性もある。

 $110\sim116$  は瓦質の捏鉢と思われる破片である。東播系須恵器に似た形状を呈する。116 は口唇部が屈曲しており、注口部の可能性がある。 $117\cdot118$  は、器種不明の瓦質土器である。117 は輪状になっており底がない。底面には工具痕と思われる凹凸がみられる。また、底部の接合面にも工具痕と思われる凹凸が確認できる。

 $119 \sim 128$  は、瓦質あるいは軟質焼成の土器で、壺あるいは甕の破片と思われる。 $119 \cdot 120$  は、断面の胎土の色調が薄く互層状を呈しており、剥離面も層状に剥離しており、同一個体の可能性がある。 $120 \cdot 121$  は口縁端部が下方に下がっている。 $126 \sim 127$  は外面に粗いハケメもしくは沈線状

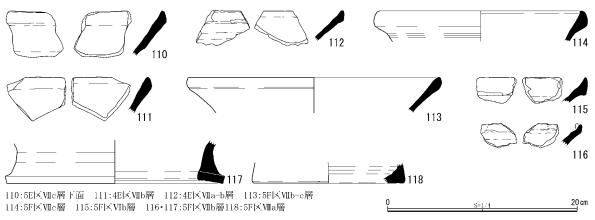
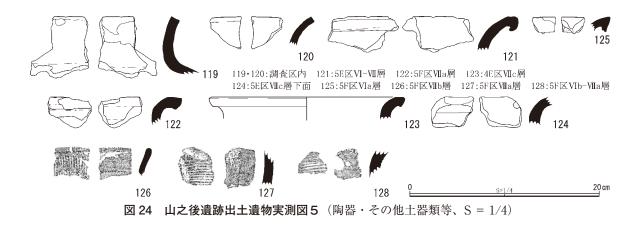


図 23 山之後遺跡出土遺物実測図 4 (瓦質土器等、S = 1/4)



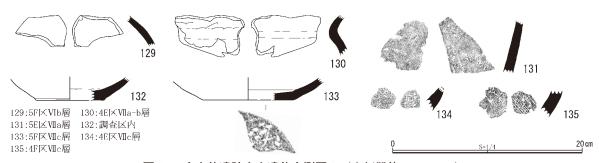
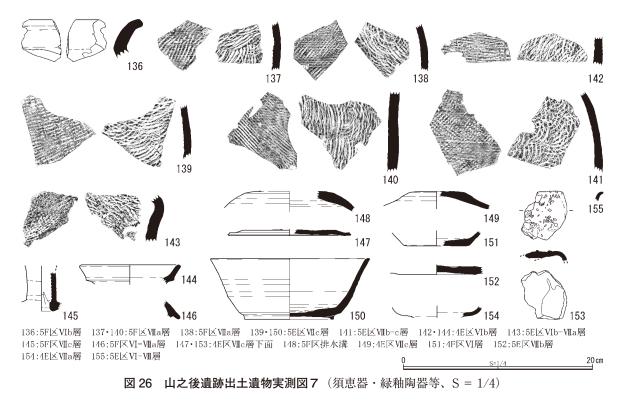


図 25 山之後遺跡出土遺物実測図 6 (土師器等、S = 1/4)



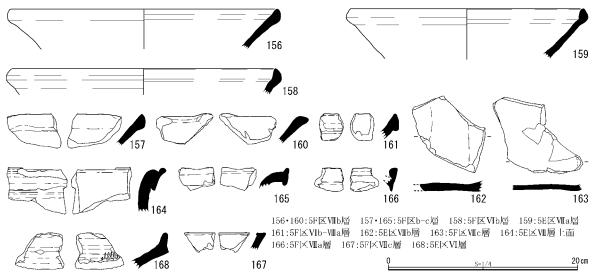


図 27 山之後遺跡出土遺物実測図 8 (須恵器等、S = 1/4)

ものがみられる。

129~135 は、古代以前の土師器と思われる破片である。 129 は壺、130・131 は甕の破片と思われる。129 の内面と 131 の外面には細かいハケメがみられる。133・134 は底部 片で、133 の外面には縄目状の圧痕等がみられる。134・135 は製塩土器と思われる破片で、内面に布目痕がみられる。

 $136 \sim 154$  は古代の須恵器と思われる破片である。136 は 甕の口縁、 $137 \sim 143$  は甕の胴部と思われる破片でいずれ も内面に同心円状の当て具痕を残す。 $137 \cdot 138 \cdot 141$  は外面 のタタキを一部ナデ消している。143 は歪みが顕著である。

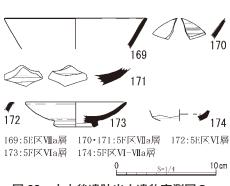


図 28 山之後遺跡出土遺物実測図 9 (磁器、S = 1/4)

144・145 は長頸壺の口縁および頸部と思われる破片である。146~149 は坏蓋と思われる破片である。146 は細片であるが、内面に返りを有している。147 は返りが消失している。150 は坏身で、底部に高台を持つが大部分が剥落しており、残っているのはわずかである。胴部上半はわずかに外反する。151~152 は坏身と思われる底部の破片である。153 は歪みが著しく器種が不明であるが、坏蓋の可能性がある。上面には砂礫が焼き付いている。154 は器種不明の須恵器で、内面には自然釉がかかっているが、釉薬の上辺は真っ直ぐであることから重ね焼きをしたものと思われる。

155 は表面に薄く緑色の釉薬がみられるもので、緑釉陶器の可能性がある。

 $156 \sim 161$  は、東播系須恵器の捏鉢と思われる破片で、口縁部端部がやや内側に屈曲したり、外側に肥厚させたものなどバリエーションがみられる。図示した他にも破片が出土している。 $162 \sim 163$  は捏鉢の底部の可能性があるものである。

 $164 \sim 168$  は陶器である。164 は口縁部が「T」字状を呈しており、14 世紀末から 15 世紀前半頃の常滑焼きと思われる。 $165 \cdot 166$  も同じく「T」字状を呈する口縁であるが、166 は下方への張出が小さい。 $167 \cdot 168$  は備前焼の擂鉢と思われる破片である。167 は口縁の上面は水平に近く、口縁の端部が内面側にわずかに突出している。13 世紀頃のものと思われる。168 は内面には卸し目が確認できる。16 世紀頃のものと思われる。

 $169 \sim 171$  は青磁と考えられる破片である。169 は越州窯系の可能性があるもので、口縁は直線的に延びており、太宰府分類(太宰府市教育委員会 2000)の椀 I 類に該当すると思われる。170 は胴部の細片であるが、内面に文様がみられるが詳細は不明である。太宰府分類の龍泉窯系椀 I 類と思われる。171 は

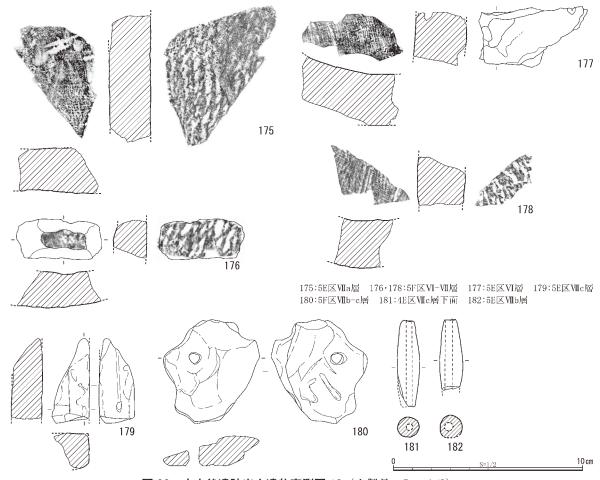


図 29 山之後遺跡出土遺物実測図 10 (土製品、S = 1/2)

内面に圏線が確認で き、外面は破片の下 部 2/3 は露胎して いる。胎土はやや黄 色みがかる。細片の ため分類は明らかで ない。172~174は 白磁と考えられる破 片である。172 はや や青みがかった釉薬 で、口縁端は外側 へ水平に折れ曲が る。太宰府分類の白 磁V類と思われる。 173 は小型で外面腰 部以下は露胎してお り、内面には目跡が みられる。畳付の調 整は荒く、工具痕が 残る。174 は細片で あるが、外面は面取 りを施しており、八 角坏と考えられる。 腰部以下は露胎して いる。173・174 は いずれも新垣・瀬戸 分類(新垣・瀬戸 2005) のD類に該当 すると考えられるも ので、173 は皿 I c類、174は細片で 分類は難しいが、腰 部以下はやや丸みを もっているため、坏

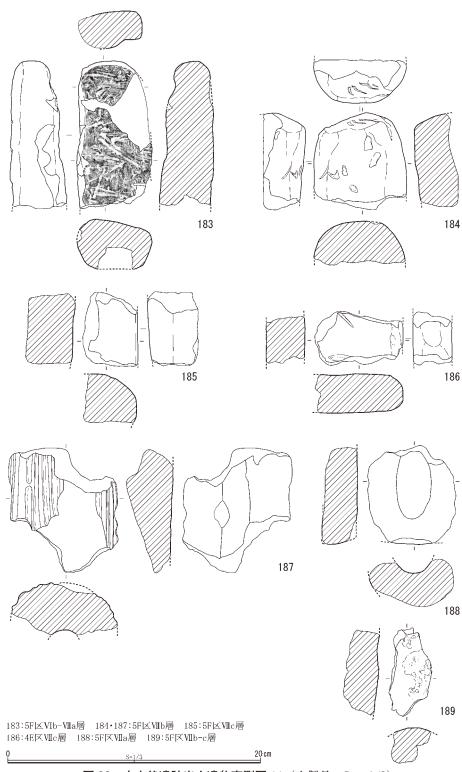


図 30 山之後遺跡出土遺物実測図 11 (土製品、S = 1/3)

Ⅱ類に該当すると思われる。

#### (2) 土製品 (図 29・30)

 $175 \sim 178$  は瓦と考えられる土製品の破片で、 $175 \cdot 176$  は土師質、 $177 \cdot 178$  は須恵質である。全形がわかるようなものは出土していない。177 を除く 3 点はいずれも外面に縄目状のタタキ痕をもつ。175 は内面に布目の圧痕がみられ、177 と 178 にもわずかであるが布目の圧痕が残っている。

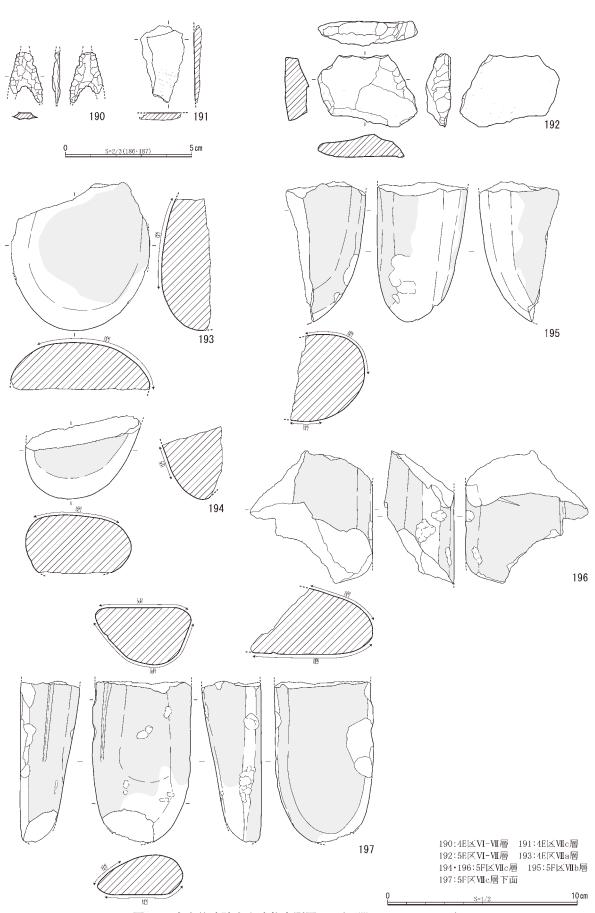


図 31 山之後遺跡出土遺物実測図 12  $(石器、S = 2/3 \cdot 1/2)$ 

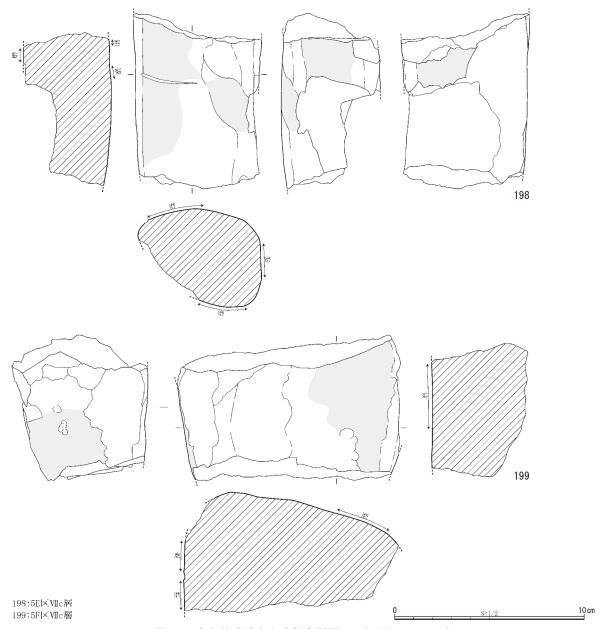


図 32 山之後遺跡出土遺物実測図 13 (石器、S = 1/3)

179 は器種不明の土製品で、焼成は瓦質土器に類似しており、その可能性がある。180 は欠損が著しいものの、中央付近に穿孔が施されており、土師質土器の底部片を利用した紡錘車と考えられる。181・182 は土錘である。

183~186 は用途不明の土製品である。角が丸みをおびた直方体状を呈し、表面が整えられているものが多い。183 の表面にはスサの痕跡がみられる。図示した他にも同様な破片が出土している。また、同様に図示していないが小さな焼成粘土塊状のものも多く出土している。

187~189 は鞴の羽口片と考えられるもので、187 は簀巻き状の工具で成形したと思われ、外面に波板状の凹凸がみられる。189 は表面が被熱により発泡している。また、図示した以外にも羽口の小片が出土しているものの、鉄滓は確認できなかった。

#### (3) 石器(図31・32)

189 は打製石鏃、191 は磨製石器の破片である。191 は表面に擦痕がみられる。192 は二次加工のある剥片と思われるもので、被熱の影響のためか風化が著しい。193~199 は、使用によって摩耗したと思われる平滑な面をもつ石器で、磨石あるいは砥石等と思われるものである。195 は被熱により表面全体が橙色に、196・198 は被熱により一部黒色に変色している。図示したほかに、遺物ではないが、長さ10cm程度の川原石の円礫が比較的多く出土している。

#### 第4節 遺構と遺物の検討

山之後遺跡では、遺構として土坑8基、ピット8基を検出している。これらの土坑およびピットの埋土は、土坑8を除くと、いずれもW層に類似した土であることから、W層堆積中に掘削が行われたものと思われる。また、土坑8の埋土の状況から、W層下面は不整合面で、W層堆積以前に一度造成されている可能性がある。その時期については、W層から出土している土器が参考になると考えられる。

山之後遺跡のW層から出土した遺物は、瓦質土器の鍋・釜類、東播系須恵器などが多い。この中で時期が比較的比定しやすい東播系須恵器は、その形態から第II 期第 2 段階〜第II 期第 1 段階(森田 1994)に該当するものが多く、その時期は 13 世紀頃と考えられる。このほか、東播系に類似した口縁形態をもつ瓦質の捏鉢も出土している。捏鉢以外にも多くの瓦質土器の破片が出土しているが、これら瓦質の鍋・釜類は 13 世紀以降に出現するとされる(菅原 1988)。出土した鍋・釜類は、形態的には「豊前・周防型」や「筑前型」(菅原 1988)に類似するものなど、バリエーションが豊富である。しかし、在地品の様相があきらかでないため、その差が時期差か地域差かは決め手に欠ける。この他の陶磁器類をみると、常滑焼の甕、備前焼の擂鉢、白磁類など 15~ 16 世紀ものが目立つ。このようにしてみると、今回の調査で出土した土器類は 13~ 16 世紀までの幅があるということができる。ただし、比較的新しい陶磁器類はW層上面~VI層出土のものが目立つことから、もう少し細分できる可能性がある。

次に土師質土器の底部切り離し技法をみると、ヘラ切りは少数で、多くは糸切りである。九州南部において、糸切り底は12世紀中頃に出現するものの、普及するのは都城以南で、西都市以北では変わらずヘラ切り底が主流を占めるとされる(岡元1994)。ところで、土坑4から出土している土師質土器は、坏2点は器高に対する径が大きく、また器高も低い点で、他の土師質土器の坏とはやや異なる。地理的にやや離れるが、都城盆地ではおおまかな傾向として、坏の口径は大きいものから小さなものへ、体部に丸みをもつものから直線的なものへ変化する(桒畑2004)ことが指摘されている。この点からすれば、土坑2出土の坏は包含層出土のものよりも古く位置付けられる。底部の切り離し技法については、混在している可能性があるため、断言は難しいが、ヘラ切りである点は古く位置付けられる要素である。土坑2出土の土師質土器の時期については、都城盆地内の坏の形態(桒畑2004)を参考にすると、12世紀頃のものに近いと思われる。その他のものについては、13世紀~14世紀頃の幅があり、上記の瓦質土器等と同様な時期であると思われる。

このような土坑 2 と包含層中の遺物について、上記のように形態差がみられる背景としては、 $\mbox{$\mathbb{N}$}$  層中においても造成が行われている可能性が考えられる。この点に注意してみると、底部ヘラ切りの小皿は $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層から出土しているものがほとんどであり、逆に糸切りのものは $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層から出土しているものが少ない。このことから、 $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層の上下面においてそれぞれ造成が行われた可能性が考えられる。 $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層下面の造成については、土坑  $\mbox{$\mathbb{N}$}$  から  $\mbox{$\mathbb{N}$}$  と考えられる。 $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層上面については、 $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層が  $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層と面については、 $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に層が  $\mbox{$\mathbb{N}$}$  に  $\mbox{$\mathbb{N}$}$ 

その後の15~16世紀頃から水田として利用されたものと考えられる。

このほかに、数は少ないものの特筆すべき遺物として瓦と鞴の羽口がある。瓦(図 29 - 175~ 178) は、古代のものと考えられ、内面に布目痕、外面に縄目のタタキ痕がみられる。類似した瓦 は8~9世紀に操業された下村窯跡群(宮崎市教育委員会2008)や、山之後遺跡の南側の近い位 置にある平田追遺跡(宮崎県埋蔵文化財センター 2000)でも出土している。次に、鞴の羽口では、 簀巻き状の工具により成形を施したと考えられる外面の凹凸が特徴的なもの(図 30 - 187)があ る。このような外面に凹凸をもつ形態は、時期的には奈良時代と、古代末~中世初頭頃の時期に限 られるようである。古代のものは平城京や法隆寺、川原寺のほか、岡山県鬼城山、愛媛県佐夜ノ谷 Ⅱ遺跡などで出土している(村上2006、岡山県教育委員会2013)ようである。いずれも古代政権 との強い結びつきをもった遺跡である点が特徴である。一方、古代末~中世初頭のものは、「板屋 型精錬鍛冶炉」に特有の大形羽口で、島根・鳥取・新潟といった日本海沿岸地域でみられる(角田 2004・鳥取県埋蔵文化財センター 2014)。山之後遺跡で出土している遺物の中心的な時期は13~ 14世紀であり、時期的には日本海沿岸地域出土のものに近いが、山陰地域との関連性が乏しい点 が問題である。一方、古代については、遺物の量こそ少ないものの、官営施設と関係が強い瓦が出 土している他に、該当する時期の須恵器も出土している。これらの点を考えると、今回出土した羽 口は古代に属するものであると想定できる。このような瓦や羽口の出土から、この付近に政権と結 びつきが強い官営施設があった可能性がある。時期としては、出土している須恵器などから、8世 紀後半頃が考えられる。

ところで、古代の須恵器と思われる資料の中には、歪みが大きいもの(図 26 - 143)や、同様に歪むとともに砂礫が焼き付いたもの(図 26 - 153)などがみられる。また、割れ面が二次被熱を受けたようなもの(図 26 - 139・142)もみられる。そのため、付近に須恵器の窯跡が存在する可能性も考えられる。以上のような遺物から、瓦や鉄器といった物品の生産に関連した工房的な施設であった可能性が考えられる。

#### 引用・参考文献

新垣 力・瀬戸哲也 2005「沖縄における14世紀~16世紀の中国産白磁の再整理 付.14世紀~16世紀の青磁の 様相整理メモ」『沖縄埋文研究』 3、沖縄県埋蔵文化財センター、79-98 頁

岡元武憲 1994 「Ⅱ 各地の土器の様相 13. 九州南部」『概説 中世の土器・陶磁器』、真陽社、197-211 頁岡山県教育委員会 2013 『史跡 鬼城山 2 』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 236

角田徳幸 2004「中国地方における古代末から中世の精錬鍛冶遺跡」『考古論集 - 河瀬正利先生退官記念論文集 - 』、 873 - 894 頁

乗畑光博 2004「都城盆地における中世土師器の編年に関する基礎的研究(1)」『宮崎考古』第19 号、39-53 頁 佐土原町教育委員会 1996『下村窯跡群報告書(基礎資料編)』佐土原町文化財調査報告書第10 集 太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡 X V』

鳥取県埋蔵文化財センター 2014『殿河内ウルミ谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 57 宮崎県埋蔵文化財センター 2000『平田迫遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 29 集

宮崎市教育委員会 2008『下村窯跡群報告書Ⅱ (遺物編)』宮崎市文化財調査報告書第72集

間壁忠彦 1991 『備前焼』 考古学ライブラリー 66、ニュー・サイエンス社

村上恭通 2006「日本古代の製鉄炉と国家政策」『鉄と古代国家~今治に刻まれた鉄の歴史~』第7回愛媛大学考古 学研究室公開シンポジウム・今治市古代文化シンポジウム、愛媛大学考古学研究室・今治市・今治市教育 委員会、15-18 頁

森田 稔 1994「Ⅲ 土器・陶磁器 8.中世須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』、真陽社、356-366 頁

#### 第5章 総括

#### 第1節 古代の社会について

今回の調査では、潮遺跡において古墳時代の終わり頃の土器を焼いたと思われる土坑がみつかり、この付近で土器の生産が行われていたことが明らかとなった。また、丘陵を挟んで南側に位置する山之後遺跡においては、当該時期の遺構自体は検出できなかったが、瓦といった官営施設に関連する遺物がみつかった。その他に、政権との結びつきが強いとされる簀巻き状工具によると思われる成形痕をもつ鞴の羽口や、焼け歪んだような須恵器の存在から、それが官営工房的な物であったことが推察された。特に、簀巻き状工具によると思われる成形痕を残す鞴の羽口は、奈良時代と時期的に限られているだけでなく、当時の社会にとって重要な地域や場所であることが多い。したがって、この山之後遺跡の官営工房も単なる地方行政の支配下にあるだけではなく、国家政策と結びつきがあるような性格の施設であったと想定される。

山之後遺跡の出土遺物から時期的には8世紀後半頃と考えられるが、生産活動という面では、潮 遺跡の頃に既に萌芽があったのかもしれない。

周辺地域に目を向けると、三財川南岸地域では、瓦や須恵器、そして石帯が出土した平田迫遺跡や国府に瓦や須恵器を供給した下村窯跡群などがあり、この付近一帯が国府への物資の供給を広く行った地域であったようである。潮遺跡・山之後遺跡周辺にも、まだ知られていない生産遺跡が存在する可能性がある。今回の調査で検出した甌穴内には、不純物の少ない粘土の堆積がみられたが、このような甌穴も、自然の地形を生かしつつ良質の粘土を獲得するために利用された可能性も考えておきたい。

山之後遺跡が位置する場所は、このような南側の物資を国府に供給するルート上にあるだけでなく、平野部への玄関口となる重要な地点にある。ところで、西都市史では、日向国府から大隅国府を結ぶ官道として、国府から南下し、三財川を越えて都於郡へと続くルートが想定されている。仮に官道がこのルートであった場合には、潮遺跡・山之後遺跡が立地するこの場所は、官道との接点として、さらに重要な交通の要衝として位置付けられる。その点では、潮遺跡付近に「馬継谷」という地名がみられるのも興味深い。

このように今回の調査によって、奈良時代においては、山之後遺跡の付近に国家権力と結びつきがあるような官営工房、あるいはその他の何らかの官営施設が存在したことを想定することができた。そして、その背景には、当該地域が国府への物資供給ルートと、官道という交通の要衝的性格があったことが考えられる。また、このような生産行為は、潮遺跡の焼成土坑にみるように既に前代に萌芽的な状況であったとみることができるのかもしれない。

#### 第2節 中世の社会について

今回の潮遺跡の調査では、中世の生活面は後世における人々の活動によって削平されてしまっていたため、当時の社会の様子を知ることは困難である。しかし、表土中からわずかではあるが青磁や青花の細片が出土していることから、この付近で人々が生活していたことは間違いないと考えられる。

一方、山之後遺跡では、当該時期の遺物が多く出土しているが、包含層中からの出土であり、大部分が流れ込みであると思われる。出土している土器は、土師質土器の坏・小皿を中心として、瓦

質土器の鍋・釜・捏鉢、東播系須恵器の捏鉢が多く出土している。これらの土器は 13 ~ 14 世紀頃のものが中心であると思われる。鍋・釜については、口縁部の破片が多くバリエーションも多いが、県内におけるこられの土器の変遷過程が不明であるため、それが時期的な差異か、地域的な差異であるのかは明らかでない。この点は今後の課題である。このように、土師質土器・瓦質土器が多い一方、この時期に他の遺跡でよくみられる輸入陶磁器類がほとんどない点も特徴である。破損しやすいと思われる土師質土器や瓦質土器を廃棄した結果とも考えられるが、包含層出土遺物であるため、その背景は明らかではない。

このような遺物や、検出した遺構の状況から、遺跡の形成には大きく2つの段階があったと考えられる。最初は $\mbox{W}$  c 層堆積段階で、この段階では自然堆積層の $\mbox{K}$  層を平坦に整地した後に周辺に人々が生活していたと思われる。土坑4はこの時期に掘削され、土器が埋置されたと考えられ、土器の形態から時期は12世紀頃と思われる。次の段階は $\mbox{W}$  a  $\mbox{ b}$  層堆積段階で、包含層中の遺物から時期は13~14世紀頃と考えられる。 $\mbox{W}$  a  $\mbox{ b}$  層については、周辺の流れ混みとともに、周辺の土で造成している可能性も考えられる。その後は遺物の出土が少なくなるため、周辺の人々の生活の仕方が変化したのかもしれない。

中世における山之後遺跡の社会的な状況は、遺跡から数km南西に向かった位置にある都於郡城に拠点をおいた伊東氏の動向と関係していると考えられる。伊東氏が日向に下向し都於郡城を築くのは建武2(1335)年で、2代の伊東祐重以降に勢力が拡大していき、10代の伊東三位入道義祐の頃に最盛期を迎えるようである。発掘調査の成果によれば、祐重が城主となる14世紀後半以降に輸入陶磁器がまとまってみられるようになり、15世紀には邵武四都窯系白磁の皿、義祐が城主となる15世紀後半には景徳鎮窯系の青花などがみられるようになり、そのバリエーションも増える(西都市教育委員会2015)ようである。

以上のような伊東氏の状況と比較すると、山之後遺跡において遺物がまとまってみられるのは伊東氏が都於郡城を築く前から、都於郡城において日向を支配するようになった初期の頃に該当する。山之後遺跡では輸入陶磁器類が少ないが、都於郡城跡においても、築城以前の14世紀前半頃までは輸入陶磁器の出土数は少ない(西都市教育委員会2015)ようである。したがって、この時期には輸入陶磁器はこの辺りにあまり流通していなかったと考えられる。その後、伊東氏の勢力拡大にともなうように遺物が少なくなっており、VI層が堆積するのはこの頃と思われる。この時期には、山之後遺跡では白磁の皿や八角杯が出土していることも、都於郡城の調査成果と類似している。このような状況からすると、VII a・b 層は単なる流れ込みとするよりも、伊東氏の勢力拡大の途中で、その何らかの影響を受けて造成を行ったと考える方がよいと思われる。

以上のように、古代後半~中世前半の様相については明らかではないが、山之後遺跡は周辺地域 の政治的な動向と密接に関係していたということができる。

#### 引用・参考文献

西都市 2016『西都市史 通史編』上巻

西都市教育委員会 2015 [国指定史跡 都於郡城跡] 西都市埋蔵文化財発掘調査報告書代 67 集

附表 1 潮遺跡遺構計測值一覧表

土坑					
	検出面	(m)	底	面(m)	深さ(m)
土坑 1	(0.78) ×	-	(48. 25)	× -	0.08
土坑 2	0.81 ×	-	0.70	× 0.58	0.16
土坑 3	0.76 ×	0. 75	0.71	× 0.58	0.16
土坑 4	1.10 ×	0. 69	0. 97	× 0.54	0.13
土坑 5	0.65 ×	0.42	0.56	× 0.35	0.08
土坑 6	0.85 ×	0. 51	0.70	× 0.36	0.06
土坑 7	1.25 ×	0. 95	1.01	× 0.69	0.13
土坑 8	- ×	0. 93	-	× 0.72	0.11
ピット					
	検出面	(m)	底	面(m)	深さ(m)
P1	0.26 ×	0. 26	0.08	× 0.06	0.34
P2	0.32 ×	0. 27	0.10	× 0.09	0.47
P3	0.24 ×	0.16	0.11	× 0.06	0.18
P4	0.22 ×	0.19	0.11	× 0.10	0.23
P5	0.23 ×	0.13	0.14	× 0.08	0.11
P6	0.36 ×	0. 19~0. 23	0.18	× 0.11	0. 19
P8	0.53 ×	0. 23	0.34	× 0.07~0.16	0.12
P9	0.23 ×	0. 19	0.18	× 0.08	0.09
溝状遺構					
	検出	出面(m)	底	面(m)	深さ(m)
	長さ	幅	長さ	幅	жe (III)
溝状遺構 1	(1.90)	0.85	(1.53)	0. 22	0.12
溝状遺構 2	2. 83	0.60	1. 58	0.30	0.06
溝状遺構3	(14. 13)	0.84~1.19	(14. 13)	0. 27~0. 91	0. 12~0. 27

附表 2 山之後遺跡遺構計測值一覧表

土坑				
	検出面(m)	底	面(m)	深さ(m)
土坑 1	1.63 × 1.06	1. 49	× 0.86	0.05
土坑 2 (	1.85) × (1.72)	) –	× -	(0.12)
土坑 3	1.10 × 0.94	0.77	× 0.59	0.14
土坑 4 (	0.88) × -	(0.33)	× -	0.14
土坑 5	0.77 × 0.54	0. 32	× 0.17	0. 25
土坑 6	0.88 × 0.56	0.79	× 0.44	0. 17
※土坑2は掘	り過ぎた部分がる	あるため、計測値	は推定の値で	ある
自然流路·甌	穴			
		検出面(	m)	深さ(m)
		長さ	幅	本c (m)
自然流路1		(6.50)	0. 35~1. 13	0.06~0.73
自然流路2		13.76 0.	. 44 (~3. 36)	0.40~0.70
甌穴1		(0.80)	0.81	0.73
甌穴 1 甌穴 2		(0. 80) 2. 18	0.81	0. 73 0. 54
甌穴2	検出面			0. 54
	検出面 落ち込み上面	2. 18	0.89	
甌穴2		2. 18 2. 71	0. 89 2. 02	0. 54

附表3 潮遺跡出土遺物観察表

土器	<b>}∙</b> 須恳	息器等										
掲載番号	器種		位置	取上	残存率		きさ(cr		調整 (4) (4) (4) (4)	色調 (4) 不 (4) 不)	胎土	備考
番号		(接台	状況)	番号 11-15・	率	口径	底径	器高	(外面/内面)	(外面/内面)		
1	甕	土坑2	(S2 + S2ケン)	17-21· 56	4/8	16.0	23.0		不明/不明	橙(5YR7/8)/橙(5YR7/6)	2mm以下軟赤粒·1mm以下石 英10%以下	底径欄の数値は胴部 最大径
2	甕	B2区 南東部	(ヒョウ土 + B2SE)	_	1/8	16. 1	21.6	-	不明/不明	橙(5YR7/8)	(1mm以下白砂を含)	底径欄の数値は胴部 最大径
3	甕	土坑2	(S2NW)	-	1/8	11.6	-	-	不明/不明	橙 (7.5YR6/6)	目立った砂粒無 (微細軟赤粒含)	
4	甕	土坑2	(S2NW)	-	1/8	11. 3	-	-	不明/不明	橙(7.5YR7/6)	1mm以下軟赤粒5% (1mm以下軽石含)	
5	甕?	土坑2	(S2 + S2Tr)	57.58		19. 3 20. 0	5. 1	15. 1 ~ 17. 5	縦ハウメ・ナデ/ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	2mm以下軟赤粒10% (1mm以下軽石含)	口径欄の上段は長軸 径・下段は短軸径、器 表面はほぼ剥落
6	甕	土坑2	(S2)	_	1/8>	-	-	-	横ナデ?/不明	にぶい橙(7.5YR7/4)/橙(7.5YR7/6)	1mm以下石英·他砂粒5%	
7	甕	表土中	(ヒョウ土)	-	1/8>	-	-	-	横カデ/不明	橙(5YR7/6)	3mm以下砂礫5-10%	
8	甕?	土坑2	(S2)	61	1/8	-	-	-	ナデ?/横イタナデ?	浅黄橙(10YR8/3)・にぶい橙(7.5YR7/4)/ 浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下軟赤粒·他砂礫5% 以下	
9	甕?	土坑2	(S2 + S2E)	61	1/8	-	-	-	ナデ?/イタナデ	淡橙(5YR8/4)/浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下軟赤粒·1mm以下白砂粒5%以下	内面底部付近に褐色 の付着物有
10	甕	土坑2	(S2)	60	1/8>	-	-	-	不明/不明	橙(5YR7/8)	1mm以下白砂粒·石英5%	
11	甕	土坑2	(S2)	62	2/8	-	-	8.6	ナデ?/不明	橙(5YR7/6)	1mm以下軟赤粒·白砂礫 10%(3mm白円礫含)	
12	甕?	土坑2	(S2)	92	6/8	-	7.8	-	不明/不明	橙(5YR7/6)	2mm以下軟赤粒·1mm以下白砂粒10%以下	
13	不明	土坑3	(S3)	-	1/8	-	11.8	-	横ナデ/不明	橙(5YR7/6)	2mm以下円礫40%	
14	不明	B2区 IV層下面	(B2IV 下タン)	-	2/8	-	6. 5	-	横疗*/不明	にぶい黄橙(10YR7/4)/浅黄橙(10YR8/3)	微細石英·砂粒10%	
15	鉢	自然流路2	(S6)	30	2/8	15. 2	-	6. 3	不明/不明	にぶい橙(7.5YR6/4)/橙(7.5YR7/6)	3mm以下円礫10%以下、1mm 以下石英·黒砂粒1%	
16	鉢	土坑2	(S2)	74.75	2/8	14. 4	-	-	縦ナデ?/ 横イタナデ?	橙(5YR6/6)/にぶい黄橙(10YR7/2)	2mm以下白砂礫10%	
17	鉢	土坑2	(S2)	56	4/8	13. 2	-	-	横ケデ/ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下軟赤粒20%、2mm以 下砂礫5%	

18	鉢	土坑2	(S2)	59	6/8	12. 5	-	-	横ナデ/横ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)/ にぶい黄橙(10YR7/4)		1mm以下軟赤粒10%	
19	鉢	土坑2	(S2E)	-	1/8	13. 2	-	-	横污*/不明	にぶい橙(7.5YR7/4)/ にぶい黄橙(10YR7/4)		1mm以下軟赤粒20% (2mm以下軽石および微細 砂粒含)	
20	鉢	土坑2	(S2)	56	1/8>	12.8	-	-	不明/不明	淡橙(5YR8/4)/橙5YR7/6)		外面中程に段有	
21	坏	3B⊠	(3B)	53	1/8	-	10.9	-	不明/不明	橙(2.5YR7/6)/橙(5YR7/6)		4mm以下褐礫·1mm以下砂粒 5%未満	
22	坏?	5B区 II 層	(5B II )	24	2/8	-	6. 1	-	ナデ(底部ヘラ切 り)/ ヨコナデ	灰褐(7.5YR6/4)/にぶい橙(7	7.5YR7/3)	1mm以下軟赤粒·砂粒5%未 満	
23	小皿?	自然流路2	(S6)	-	1/8>	-	7. 1?	-	不明(底部にハウメ 状の工具痕)/ ヨコナデ	橙(5YR7/6)		(3mm以下軟赤粒含)	高台状に粘土が着く
24	坏蓋	土坑1	(S1)	44	2/8	13. 6	-	-	ヘラケス゜リ・ヨコナテ゛/ ヨコナテ゛・ナテ゛	灰(N6/)/灰白(N7/)		(微細白砂粒5%)	口縁部外面に自然 釉、 27と同一個体?
25	坏蓋	土坑1 検出面	( II S1ケン)	8.9	2/8	13. 6	-	-	ヘラケス゛リ・ヨコナテ゛/ ヨコナテ゛・ナテ゛	灰(N6/)		(微細白砂粒5%以下)	口縁部外面に自然 釉、 28と同一個体?
26	坏蓋	3B区 II 層	(3B II )	27	8/8	2. 3	-	-	3コナテ*/-	灰白(10Y7/1)		(微細白砂粒含)	
27	坏蓋	表土中	(ヒョウ土)	-	-	-	-	-	30tf*/30tf*	灰(N6/)		1mm以下白砂粒5% (2mm白砂粒含)	
28	甕?	自然流路2	(S6)	32	1/8>	-	-	-	タタキ(格子目)/ (当て具痕→)ナテ *	黄灰(2.5Y6/1)		2㎜以下砂粒5%以下	
29	甕?	B2区IV層 下面	(B2IV 下メン)	-	1/8>	-	-	-	タタキ(格子目)/ (当て具痕)	灰(N6/)/灰(5Y6/1)/ 割面-灰褐(7.5YR5/2)の間に	.灰(5Y6/1)	目立った砂粒無	内面当て具痕は縄目 状、外面に褐色の付 着物有
30	甕?	文化財課 トレンチ	(文Tr3)	-	1/8>	-	-	-	タタキ(平行)/ (当て具→)ナデ	灰 (10Y5/1)/灰 (N6/)/ 割面-灰褐 (7.5YR6/2)		(1mm以下白砂粒含)	
31	甕?	自然流路1	(S3)	-	1/8>	-	-	-	タタキ(平行)/ (当て具痕)	灰 (N5/)		(微細白・黒砂粒5%未満)	
32	甕?	自然流路1	(S3)	54	1/8>	-	-	-	タ外(平行)/ (当て具痕)	灰(N5/)/灰(N6/)/ 割面-赤灰(7.5YR5/1)		(微細白砂粒5%)	割れ面の一部が摩耗 もしくは使用により 平滑
磁器													
掲載 番号	-	器種		<b>土位置</b> 合状況)		取」 番 <sup>長</sup>		残 存 率	色i	調(釉/胎土)	胎	±	備考
33	青	磁椀	表土中	( tab:	土)	-		1/8>	オリーブ 灰 (10Y6	/1)/灰白 (N8/)	目立った混入	物無 龍泉窯系	
34	青	花 皿	表土中	( נושל)	土)	-		1/8>	灰白 (5GY8/1)	/灰白 (N8/) E	目立った混入	物無 小野 1982 分	類 B1 群か

附表 4 山之後遺跡出土土器等観察表

	<b>下質土</b>				***		++/-	n)	長田 事件		h Em		
掲載 番号	器種	出土 位置	取上番 (接合∜		残 存 率	口径	きさ(d 底径		外面/内面	底部切離	_ 色調 (外面/内面)	胎土	備考
1	瓦器椀?	5F区 VIIc層	(5F <b>VI</b> Ic)	339	1/8	-	7.6	-	横位:ガキ・ヨコナデ/ ナデ→:ガキ?	-	暗灰(N3/)	(微細白砂粒5%)	外面にヘラ状工具による 沈線状の凹み有
2	瓦器椀?	4E区	(4EIX上メン)	367	2/8	-	9.0	_	30tf*/30tf*	-	褐灰(10YR6/1)/ 医白(10YP7/1)	1mm以下の黒砂粒10%、4mm	化豚体の凹み有
3	瓦器椀?	VIIc下面 4E区 VIIa層	(4EVIIa)	-	1/8	-	7. 1	-	32†7°/32†7°	-	灰白(10YR7/1) 橙(7.5YR6/6)/ にぶい黄橙(10YR7/4)	灰礫含 目立った砂粒無し	
4	坏?	5E区 VIIc層	(5EVIIc)	-	1/8	-	-	-	不明/不明	-	灰褐(7.5YR5/2)/ 灰褐(7.5YR5/2)・ にぶい褐(7.5YR5/4)	他器種の可能性有	
5	坏	土坑4 底面	(S473)	406 • 407	7/8	12. 7	10.0	3. 4	ヨコナテ゛/ヨコナテ゛	^ <del>j</del>	浅黄橙(10YR8/3)/ 灰白(10YR3/2)	2mm以下灰·黒砂粒20%以 下、3mm以下軟赤粒5%未満	
6	坏	土坑4 底面	(S473)	408	7/8	13. 1	10.2	3. 0	35†7°/35†7°	ヘラ	にぶい黄橙(10YR7/2)/ にぶい橙(7/5YR7/4)	目立った砂粒無し	
7	坏	5E区 VIIb層	(5EVIIb)	171	1/8	-	-	-	不明/不明	^5?	橙(7.5YR7/6)	1mm以下軟赤粒5%前後	
8	坏	5F区 VI-VII層	(5FVI-VII)	-	1/8>	11.6	8.8	3. 9	32†7°/32†7°	糸	浅黄橙(7.5YR8/6)・ 橙(5YR6/7)/ 橙(5YR6/7)	1mm以下軟赤粒10%以下 (微細石英·黒砂粒含)	
9	坏	5F区 排水溝	(5F/Y水)	-	1/8	12. 8	9. 2	3. 1	3コナデ / 不明	糸	浅黄橙(7.5YR8/4)/ 浅黄橙(7.5YR8/6)	1mm以下軟赤·黒粒10%以 下(微細比呂砂粒5%)	
10	坏	6F区 <b>VII</b> a層	(6FV <b>I</b> a)	-	1/8	-	7.9	-	不明/ナデ?	糸	浅黄橙(7.5YR8/6)/ にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下軟赤粒5%前後(微 細石英·黒砂粒5%以下)	
11	坏	4E区 W∎a-b層	(4EVIIa-b)	-	1/8>	-	-	3. 3	93†7°/93†7°	糸	浅黄橙 (10YR8/4)/ 橙7.5YR7/6)	1mm以下軟赤粒(酸化 鉄?)5%前後(微細赤痢 5-10%)	
12	坏	6F区 VIIa層	(6FV <b>I</b> a)	-	1/8>	-	-	3. 9	3コナテ゛・ケス゛リ?/ 3コナテ゛	糸	橙(5YR7/6)	1mm軟赤·黒粒5-10%(微細 白砂粒10%)	
13	坏	4E区 Ⅷb層	(4EVIIb)	315	2/8	-	9.0	-	不明/ヨコナデ	糸	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1mm以下軟赤粒·褐砂粒 10%以下	外面にヘラ状工具による と思われる工具痕有
14	坏	4E区 VIIa-b層	(4EVIIa-b + 4EVIIa)	237	6/8	-	8. 1	-	不明/ヨコナデ・ナデ	糸	灰白(10YR8/2)	目立った砂粒無し (2mm以下軟赤粒・1mm雲 母)	内外面に褐色の付着物 有
15	坏	4E区 VIIc層	(4EVIIc)	359	4/8	-	7.9	-	不明/不明	糸	浅黄橙(10YR8/3)/ 灰白(10YR8/2)	2mm以下黒砂礫·1mm以下 軟赤粒5%以下	底部に粘土の塊付着、瓜 部に圧痕有
16	坏	5F区 <b>W</b> Ic層	(5F <b>VI</b> c)	285	2/8	-	7.1	-	ヨコナテ゛/ヨコナテ゛	糸	にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下軟赤粒10%前後、1 mm以下褐砂粒1%	
17	坏	5E区 VIb層	(5EVIb)	152	2.8	-	7.2	-	33†7° • †7° ?/ 33†7° • †7°	糸	浅黄橙(10YR8/4)	2mm以下軟赤粒·1mm以下 黑砂粒5%以下、1mm以下石 英1%以下	
18	坏?	5E区 VIIa-b層	(5EV <b>I</b> a−b)	-	2/8	-	6.8	-	3:27; *?/3:27; *?	糸	浅黄橙 (7.5YR8/6)	(微細暗灰·黒砂粒10%前 後)	内面に圧痕有?
19	坏	5E区 VIIa層	(5EV <b>I</b> a)	178	1/8>	-	10.2	-	35†7°/35†7°	糸	浅黄橙(10YR8/4)/ 橙(5YR7/6)	2mm前後軟赤粒5%以下、1 mm以下灰・赤褐砂粒5%	
20	坏	5E区 VIIa層	(5EV <b>I</b> a)	-	3/8	-	6.2	-	3コナテ・ナテ <sup>*</sup> /3コナテ <sup>*</sup>	糸	灰白(2.5Y8/2)/ にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下砂粒5%未満	
21	坏	排水溝	(5F/Y水)	-	3/8	-	6.6	-	不明/不明	糸	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1mm以下軟赤粒10%、1mm以 下石英·黑砂粒5%未満	
22	坏	5F区 VIIb-c層	(5F <b>VI</b> b−c)	-	2/8	-	6. 1	-	3:2†5°/3:2†5°	糸	灰白(10YR8/2)	1mm以下軟赤·黒粒5%以下	
23	坏	6F区 V <b>II</b> a層	(6FV <b>I</b> Ia)	-	1/8	-	7.8	-	3:3†***********************************	糸	にぶい黄橙(10YR7/4)/ 橙(7.5YR7/6)	(微細軟黒·赤粒5%先後)	内面に暗赤褐色~黒褐色の被膜状の付着物?
24	坏	5E区 VIIb層	(5EV <b>II</b> b)	322	3/8	-	7.2	-	93†7°/33†7°	糸	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下軟赤粒10%以下 (微細石英·黒砂粒5%以 下)	
25	坏?	6F区 <b>W</b> Ia層	(6FV <b>I</b> a)	-	2/8	-	6.6	-	32t5°/32t5°•t5°	糸	浅黄橙 (7.5YR8/4)/ 浅黄橙 (7.5YR8/6)	2mm以下軟赤粒1%以下	黥面に工具による凹線 状の凹み
26	坏	4E区 <b>W</b> Ia層	(4EVIIa)	16	-	-	-	-	-/不明	糸	浅黄橙(10YR8/3)	2mm以下黑砂粒·軟赤粒5% 以下	
27	坏	5F区 VIIb-c層	(5FV <b>I</b> b-c)	301	3/8	-	8. 0	_	3コナデ/不明	糸? (→ ナデ)	橙(5YR7/6)/橙 (7.5YR7/6)	1mm以下灰砂粒·軟赤粒5%	
28	坏	5F区 VIIb層	(5F <b>VII</b> b)	292	2/8	-	8. 1	-	93†7°?/33†7°?	不明 (→ ナデ?)	橙(5YR7/6)	1㎜以下軟赤粒5%	
29	坏	5F区 VIIb-c層	(5FVIIb-c + 5FVIIa + 5FVIIb + 5FVIIa-b)	293		12. 1	8. 0	4. 1	(32†5°)/(32†5°)	不明	橙(5YR7/6)	1mm以下軟赤粒10%、1mm以下黑砂粒5%未満	口縁部歪む
30	坏	5E区 VI-VII層	(5EVI-VII)	-	2/8	12. 1	8.8	3. 7	不明/不明	不明	橙(5YR6/6)・ 褐灰(7.5YR6/1)/ 橙(5YR6/6)	1㎜軟黒粒1%	
31	坏	5F区 VIIc層	(5F <b>VI</b> c)	397	2/8	13. 5	10. 2	3. 6	不明/不明	不明	橙 (5YR7/6)	1mm以下黑砂粒(·微細軟 赤粒)5%以下	
32	坏?	5F区 VIIb層	(5F <b>VI</b> Ib)	-		11. 7	-	-	33†7°/33†7°	-	浅黄橙 (7.5YR8/4)/ 浅黄橙 (7.5YR8/6)	1mm以下軟赤粒5%前後(微 細黒砂粒5%前後)	

											Im ( ) ( ) (		
33	坏	5F区 V <b>II</b> b層	(5F <b>VⅡ</b> b)	-	1/8	11.4	-	-	35†7°/35†7°	-	橙(7/5YR7/6)/ 橙(5YR7/6)	1mm以下軟赤粒1%(微細石 英·黒粒20%前後)	
34	坏	6F区 VIIa層	(6FVIIa)	-	1/8>	-	-	-	不明/ヨコナデ	-	浅黄橙(10YR8/4)/ にぶい橙(5YR7/4)	1mm以下軟赤粒・黒砂粒5% 前後(微細な石英含)	
35	坏	5E区 VIIc層	(5EVIc)	320	1/8	-	7. 6	-	931デ/不明	不明	浅黄橙(7.5YR8/4)/ 浅黄橙(7.5YR8/6)	2mm以下軟赤粒5%以下、 1mm以下黒砂粒1%以下	
36	坏	5F区 VIIc層	(5F <b>VI</b> c)	341	2/8	-	8. 5	-	不明/不明	不明	浅黄橙 (7.5YR8/6)/ 橙 (5YR7/8)	2mm以下軟赤粒·1mm以下 黑砂粒10%以下)	
37	坏?	5F区 VIIb層	(5F <b>VI</b> Ib)	353	2/8	-	7. 1	-	gotf*?/gotf*?	不明	橙(7.5YR7/6)	1mm以下軟赤·黒粒5%未満	
38	坏?	5F区 VIIa-b層	(5F <b>VI</b> a−b)	-	3. 8	-	6. 5	-	不明/不明	不明	橙(7.5YR7/6)	1mm以下軟赤·黒粒10%以 下	
39	坏	5E区 VI-VII層	(5EVI−VIII)	-	2/8	-	8.8	-	不明/ヨコナデ・ナデ	不明	浅黄橙(7.5YR8/4)/ 橙(7.5YR7/6)	(微細軟赤粒?·石英10- 20%)	
40	坏	5E区 VIIa層	(5E <b>V∐</b> a)	-	1/8		6. 4	-	33†7°/33†7°	不明	浅黄橙 (7.5YR8/4)/ 橙 (5YR7/6)	(微細軟赤粒10-20%、微細 石英·黒砂粒5%以下)	
41	坏	5F区 V <b>II</b> c層	(5F <b>VI</b> c)	282	1/8	-	10.0	-	9コナデ・?/不明	不明	にぶい橙(5YR7/4)/ 橙(5YR7/6)	1mm以下の灰・赤褐砂粒5%	
42	小皿	土坑4 底面	(S47a)	409	5/8	8. 6	7.0	1.4	93†デ/33†デ・ナデ	^ <del>7</del>	浅橙(5YR8/4)・ 橙(7.5YR7/6)/ 浅黄橙(10YR8/3)	1㎜以下軟赤粒1%	
43	小皿	土坑4 底面	(S473)	406	5/8	9. 4	8. 0	1. 2	33†5°/33†5°•†5°	ヘラ	橙(7.5YR7/6)/ 灰白(10YR8/2)	目立った砂粒無し	
44	小皿	土坑4	(S473)	410	2/8	8. 8	7.2	1. 1	93†5°/93†5°	ヘラ	浅黄橙(10R8/3)/ 灰白(7.5YR8/2)	1mm以下軟黒·軟赤粒5%未 満	
45	小皿	5F区 VIIb層	(5F <b>Ⅶ</b> b)	122	4/8	-	7.2	-	不明/ヨコナデ・ナデ	^ <del>7</del> ?	橙(5YR7/6)	1㎜以下軟赤粒5%前後	
46	小皿	5F区 VIIc層 下面	(5F <b>VII</b> c下)	345	6/8	9. 0	6.6	1. 3	不明/不明	ヘラ	浅黄(2.5Y8/3)/ にぶい橙(5Y7/4)・ 浅黄橙(10YR8/4)	2㎜以下軟赤粒5%未満	
47	小皿	5F区 排水溝	(5F/Y水)	-	1/8	8. 6	6. 6	1. 4	32†7°/32†7°•†7°	^̄̄̄̄ (→ †̄̄r )	浅黄橙(7.5YR8/6)	1mm以下軟赤粒1%(微細石 英含)	
48	小皿	調査区内	( - )	-	1/8	5. 8	5. 4	0. 9	93†5°/93†5°	ヘラ	浅黄橙(7.5YR8/6)/ 橙(7.5YR7.6)	(微細軟赤粒5%以下)	外面に段がつく
49	小皿?	4E区 VIIc層	(4E <b>VI</b> c)	346	1/8>	-	-	-	93†7°/93†7°	^̄̄̄̄̄?)	灰黄褐(10YR6/2)/ 灰黄(2.5Y7/2)	3mm以下灰砂粒・1mm以下 石英5%(微細な黒砂粒含)	
50	小皿	5F区 VI-VII層	(5FVI-VII + 5FVIIbハイ水)	-	3/8	7.8	6. 4	1. 5	3 <i>3†5* /</i> 3 <i>3†5</i> *	糸	浅黄橙 (7.5YR8/4)・ 橙5YR (7/6) / 橙 (5YR7/6)	1㎜以下軟赤粒15%以下	
51	小皿	4E区 VIIa層	(4E <b>VI</b> a)	37	3/8	8. 5	5. 2	1.3	32†7°/32†7°•†7°	糸	浅黄橙(10yR8/3)	1mm以下黒砂粒·軟赤粒5% 以下	
52	小皿	5E区 VIIa層	(5E <b>VI</b> a)	-	2/8	9. 4	7.4	1.2	32†7°/32†7°	糸	にぶい橙(7.5YR7/4)/ 橙(7.5YR7/6)	1mm以下灰砂粒5%	
53	小皿	5F区 VIIa層	(5F <b>VI</b> Ia)	191	2/8	7. 6	6. 0	1.0	32†7°/32†7°	糸	浅い黄橙(10YR8/3)/ 浅い黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下自砂粒10%以下、 1mm以下軟赤1%	
54	小皿	5F区 VI-VII層	(5FVI-VII)	-	3/8	7. 6	5. 9	1. 3	不明/不明	糸?	橙(7.5YR7/6)	(微細軟赤粒·石英·黒砂 粒5%)	
55	小皿	5F区 VIIa-b層	(5F <b>VI</b> a−b)	-	1/8	7. 8	5. 6	1.3	32†7°/32†7°•†7°	糸	浅黄橙(7.5YR8/6)	1mm以下軟赤粒5-10%(微 細赤痢・砂粒10-20%)	
56	小皿	5F区 排水溝	(5F/Y水)	-	1/8	8. 3	6.6	1.2	32†7°/32†7°•†7°	糸	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下灰砂粒·軟赤粒5% 未満	
57	小皿	5FVII 区a-b層	(5FVIIa−b)	-	3/8	7.8	5. 7	0. 9	9375 /不明	糸	橙(7.5YR7/6)	1mm以下軟赤粒5%前後(微 細石英·黒砂粒5%)	
58	小皿?	5E区 <b>W</b> Ia層	(5EVIIa)	254	8/8	-	5. 5	-	32†5°/†5°	糸	浅黄橙(10YR8/4)/ にぶい橙(7.5YR7/4)	(微細な白砂粒5%)	
59	小皿?	4E区 V <b>II</b> b層	(4E <b>VⅡ</b> b)	209	6/8	-	5. 4		32†7°/32†7°	糸	浅い黄橙(10YR8/4)	1mm以下軟赤粒·灰砂粒5% 未満	
60	小皿?	5F区 VIIa層	(5F <b>VI</b> a)	-	3/8	-	5. 1	-	不明/不明	糸	浅黄橙(7.5YR8/6)	1mm以下軟赤・黒粒5%以下	
61	小皿?	調査区内	( - )	-	2/8	-	6.3	-	<i>†デ/ヨコナデ・ナデ</i>	糸	浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下軟赤粒10%以下 (微細石英·黒·灰砂粒10- 20%)	
62	小皿?	5F区 VIIa-b層	(5FVIIa-b)	-	1/8	-	6. 1	-	93†7°/33†7°•†7°	糸 (→ tデ?)	浅黄橙 (10YR8/3·7.5YR8/4)/ 浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下軟質黒·赤粒5%未 満	高台状に底部外縁に粘 土付着
63	小皿	5E区 VIIa-c層	(5E <b>VI</b> a−c)	-	6/8	-	5. 2	-	9375*/9375*•75*	糸?	浅黄橙(7.5YR8/4)/ 浅黄橙(10YR8/4)	1mm以下軟赤粒10-20%(微 細石英5%)	
64	小皿?	4F区 VIIa層	(4FVIIa)	165	2/8	-	7. 4	-	不明/不明	不明 (→ fデ?)	橙(2.5YR7/6)	1mm以下黑砂粒·軟赤粒5%以下	
65	小皿	5F区 V <b>II</b> b-c層	(5F <b>VI</b> b−c)	-	3/8	7. 6	6.2	1. 3	32†7°/32†7°	不明	浅黄橙(7.5YR8/4)/ にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下軟赤粒(鉄錆状)5- 10%(微細石英10%以下)	
66	小皿	5F区 VIIa層	(5F <b>VI</b> (a)	-	1/8	7. 6	6. 4	1. 2	不明/不明	不明	浅黄橙(10YR8/3)	1㎜以下軟赤粒5%以下	
67	小皿	5E区 VIIc層下面	(5EVIIc下)	369	3/8	8. 0	6.0	1. 1	30†7°/†7°	不明	浅黄橙(7.5YR8/4)/ 浅黄橙(7.5YR8/6)	1mm以下灰·赤褐砂粒10% 3mm橙礫1%	
68	小皿	5E区 VIIc層	(5E <b>VI</b> c)	245	4/8	9. 2	7.3	1. 2	不明/ヨコナデ	不明	浅黄橙(7.5YR8/4)	(微細石英·軟赤粒·他砂 粒5%)	
				_									

69	小皿	4E区 VIIa-b層 (4EVII	a-b) -	1/8 7.5	5.6	1.3	不明/不明	不明	浅黄橙(7.5YR8/6)	1㎜以下石英5%	
70	小皿?	5F区 VIIb-c層(5FVII	bc) -	4/8 -	6.0	-	92†7°/92†7°•†7°	不明	浅黄橙 (10YR8/4)・ 浅黄橙 (7.5YR8/4)	1mm以下軟赤粒5%未満、1 mm以下石英1%	
71	小皿?	5E区 VIIc層 (5EVII	c) 324	4/8 -	6.0	-	不明/不明	不明	浅黄橙 (7.5YR8/6)	目立った砂粒無	
万督	土器										
掲載番号	器種	出土		取上番号	残存率	大きさ 径(cm)	- 調整(外面/内面)	色調	(外面/内面)	胎土	備考
72	鍋	4E区VIIb層	(4EVIIb)	205	1/8	24. 3	横ナデ・斜ハウメノ横ナデ・斜ナデ・横ハウメ		責橙 (10YR8/4)・ 責橙 (10YR8/3)	2mm以下石英5%、2mm以下軟赤 粒5-10%	
73	鍋	5E区VIIa層	(5EVIIa)	268	1/8>	-	横疗,横疗,	浅黄	i橙(10YR8/4)/ f橙(7.5YR8/6)	1mm以下石英·軟黒粒10%前後 (微細黒砂粒含)	
74	鍋	5F区VIIa層	(5FVIIa)	388	1/8>	-	横ケデ・斜ハケメ/横ハケメ	にふ	琵橙(10YR8/4)・ い橙(5YR6/4)/ 琵橙(10YR8/4)	1mm以下石英10%前後、1mm以 下軟赤粒・黒砂粒5%	
75	鍋	5E区VIIa層	(5EVIIa)	_	1/8>	-	ナデ・横ナデ/横ナデ・ 斜ハケメ→横ハケメ		積億 (10YR8/4)	2mm以下石英5-10%、1mm以下 黒砂粒5%	
76	鍋?	5F区 <b>VII</b> b層	(5FVIIb)	130	1/8>	-	不明/横/ウォ	褐灰	も(7/5YR4/2)・ そ(7.5YR5/1)/ い橙(5YR6/4)	2mm以下石英·他砂粒 5-10%(微細軟赤粒5%未満)	
77	鍋	5F区 <b>VII</b> c層	(5FVIIc)	422	1.8>	-	横ナデ?/横ナデ?	にふ	Sい赤褐(2.5YR5/4)/ Sい赤褐(10YR6/4)	1mm以下石英20%、1mm以下他 砂粒5-10%	
78	鍋?	5F区VIIa層	(5FVIIa)	94	1/8>	-	(ナデ)/(ナデ、横ハウメ)		SVV橙(5YR6/4)	2mm以下石英10-15%、1mm以下 黒砂粒·赤色岩片?等5%以下	
79	鍋	5E区VIb-VIIa層	(5EVIb-VIIa + 5E小水)	-	1/8>	-	横ナデ・縦ハウメ/横ハウメ	浅黄	i橙(10YR8/4)	2mm以下石英10%前後(微細黒砂粒等5%)	
80	鍋?	5F区VIIb-c層	(5F <b>VII</b> b-c)	-	1/8>	-	横イタナデ/斜・横ハケメ	灰(	5Y6/1)/橙(7.5YR7/6)	3mm以下石英10-15%(微細黒 砂粒等5%以下)	
81	鍋	5E区VIb-VIIa層	(5EVIb-VIIa + 4EVIIb-c)		1/8	20. 4	横ナデ・斜ハケメ/ 横ナデ・横ハケメ・斜ハケメ	にる	Sい黄橙(10YR7/3)	1mm以下石英10-20%(微細黒砂粒5%)	
82	鍋?	5E区VIIc層	(5E <b>VI</b> c)	356	1/8>	-	横テデ/横ナデ	浅黄	積橙(10YR8/4)/ 積橙(10YR8/3)	1mm以下石英10%(3mm程度の 石英含む)	
83	鍋?	6F区VIIa層	(6FVIIa)	-	1/8>	-	横ナデ?/横ナデ?	灰黄	t̂ (2. 5Y7/2)/ t̂ (2. 5Y6/2)	1mm以下石英10-15%(微細他 砂粒5%以下)	
84	鍋?	5F区 <b>VII</b> a-b層	(5FVIIa−b)	-	1/8>	-	横テデ/横ナデ		Sい橙(7.5YR7/4)・ 5橙(10YR8/4)	2mm以下石英15%前後、1mm以 下黒砂粒5%	
85	鍋?	5E区VIIa層	(5EVIIa)	189	1/8>	-	横テデ?/横ナデ?		t (2.5Y6/2)	1mm以下石英10-15%(微細黒· 褐砂粒5%以下)	
86	鍋?	5F区VI-VIIa層	(5FVI-VIIa)	-	1/8>	-	横テデ/横ナデ	浅黄	章橙 (7. 5YR8/3) / 章橙 (7. 5YR8/4)	(微細軟赤粒・石英・黒砂を 含)	
87	鍋?	6F区 <b>W</b> a層	(6F <b>VII</b> a)	-	1/8>	-	横テデ/横ナデ・ナデ	浅黄	・黄橙 (7. 5YR8/3) / 気橙 (10YR8/3)	1mm以下石英10-15%、1mm以下 黑砂粒5%以下	
88	鍋?	5F区VIb-VIIa層	(5FVIb-VIIa)	-	1/8>	-	不明/不明	浅黄	を(7.5YR) / 対橙 (10YR8/4)	1mm以下軟赤粒·石英5%以下 (微細白砂含)	
89	鍋?	4E区VIIa層	(4EVIIa)	203	1.8>	-	横疗゙/横疗゙		Sい橙(5TR7/4)/ Sい黄橙(19YR7/3)	2mm以下石英10-15%、1mm以下 黑砂粒5%	
90	鍋?	4F区VIIa層	(4FVIIa)	167	1/8>	-	横疗゙/横疗゙	浅黄	f橙(10YR8/4)	2mm以下石英20%前後、1mm以 下軟赤粒·黑砂粒5-10%	
91	鍋?	6F区VIIa層	(6FVIIa)	428	1/8>	-	横炸,人横小外	によ	い褐(7.5YR6/3)	2mm以下石英10-15%、1mm以下 黒粒5%前後	
92	鍋?	5F区VIIb層	(5F <b>VI</b> Ib)	396	1/8>	-	横テデ?/横ハケメ		5YR6/6)	3mm以下石英10-15%(1mm以下 軟赤粒·微細黒砂粒5%前後)	
93	鍋?	5F区VIIa層	(5FVIIa)	75	1/8>	-	横炸,/横炒炒?		Sい褐色(5YR6/3)/ Sい橙(7.5YR7/3)	2mm以下石英10-15%(微細黒 粒5%)	
94	鍋?	5E区 <b>VII</b> c層	(5EVIIc)	-	1/8>	-	(横ケデ・ナデ)/横ハケメ		(10YR8/4)	2mm以下石英10%以下、1mm以 下軟赤粒·黑砂粒10%以下	
95	釜	5E区VIIc層	(5EVIIc)	318	1/8>	-	不明/不明	/に	ぶい黄橙(10YR7/3) ぶい黄橙(10YR6/4)	2mm以下石英15%前後、1mm以 下他砂粒5%	
96 97	釜釜	5E区VIIa層 5E区VIIa層	(5EVIIa) (5EVIIa)	224 176	1/8>	_	不明/強い横げ。	灰黄	電機 (10YR8/4) 電視 (10YR5/2)/	1mm以下石英·褐砂粒10-20% 1mm以下石英·他砂粒10-20%	
98	釜	5F区 <b>VII</b> b層	(5F <b>VI</b> Ib)	154	1/8>	_	横疗,横疗	灰黄	1 (10YR8/2) 行掲 (10YR6/2) /	1mm以下石英10%以下、1mm以	
			(AEVIII - 1.)						(10YR6/1) *1.	下黒砂粒5%未満	
99	釜	4E区VIIa-b層	(4EVIIa-b)	210	1/8>		横ナデ/横ナデ 横ナデ・ナデ/		い黄橙(10YR7/3)	(微細石英·黒砂粒含) 1mm以下石英10%以下(軟赤粒	
100	釜?	5E区VIIc層 5E区VIIa層	(5EVIIc)	319 145	1/8>		横ナデ・斜ナデ 横ナデ/横ナデ		Sい橙(7.5YR6/4) 近橙(10YR8/4)	含) 1mm以下石英·軟赤粒10%前後	
102	鍋·釜?		(4E小水)	-	1/8>	-	タタキ→横ハケメ・斜ハケメ/ 横ハケメ・縦ハケメ	浅黄	電燈 (10YR8/4) / 電燈 (10YR8/3)	1mm以下石英·軟赤粒10%以下	
103	鍋·釜?	5F区 <b>VII</b> a層	(5FVIIa + 6FVIIa)	393	1/8>	-	タタキ→縦ハケメ?/ 横・斜ハケメ	にふ	(101R6/3) ぶい黄橙(10YR7/4)/ 5橙(10YR8/3)	1mm以下石英·軟赤粒15-20%	
104	鍋·釜?	4E区VII層上面	(4EVII上メン)	32	1/8>	-	タタキ/ハケメ		〔橙 (10YR8/4)	1mm以下石英·黒砂粒10%以下	
105	鍋·釜?		(5EVI-VII)	-	1/8>	-	タタキ/横/ケメ		積橙 (10YR8/4)	1mm以下黑砂粒·石英5%以下	
106	鍋·釜?		(5FVIIa)	384	1/8>	-	タタキ/(当て具痕→)ナテ	. 淡赤	·橙 (2. 5YR7/4) 白 (10YR8/2)	1mm以下軟赤粒·白砂粒5%未 満	軟質焼成の須恵器 可能性有
107	鍋·釜?	4F区 <b>VII</b> a層	(4FVIIa)	-	1/8>	-	タタキ/(当て具痕→)ナテ		積橙(10YR8/3)/ 積橙(10YR8/4)	2㎜以下石英5%未満	軟質焼成の須恵器 可能性有
108	鍋·釜?	5E区 <b>VII</b> b層	(5EVIIb + 5FVIb + 5EVIIa)	60 • 190	1/8>	-	タタキ/(当て具痕→)ナテ	" 浅黄	б橙(10YR8/3)	1mm以下石英·軟赤粒10- 15%(3-4mm石英含)	軟質焼成の須恵器 可能性有

109	鍋·釜?	4E区VIIa層	(4EVIIa)	212	1/8>	-	<i>タ</i> タキ/ナテ <sup>*</sup>	灰白(2.5Y7/1)/ 黄灰(2.5Y6/1)	目立った砂粒無し(微細白 砂粒含)	色 軟質焼成の須恵器の 可能性有
110	捏鉢	5E区VIIc下面	(5EIX上タン)	326	1/8>	-	不明/(ナデ)	にぶい黄橙(10YR7/3)	2mm以下軟赤粒10%以下(2- mm砂粒含)	-3
111	捏鉢	4E区 <b>VII</b> b層	(4EVIIb)	204	1/8>	_	†デ/ナデ	灰白(2.5Y7/1)/	1mm以下石英(10%以下)·1m	ım
112	捏鉢	4E区V <b>II</b> a-b層	(4EVIIa-b)		1/8>		93†7°/93†7°•†7°	灰黄(2.5Y7/2) 灰黄褐(10YR6/2)	以下軟赤粒1% 1mm以下石英10%	
113	捏鉢	5F区VIIb-c層	(5FVIIb-c +	_	1/8>		ヨコナデ・ナデ・/	灰(576/1)	微細白砂粒10-15%(1-3mm	Б
-113	1.55	31-12-VIID C/E	5F <b>VI</b> Ib)		1/0/		ヨコナテ゛・ナテ゛		英1%以下)	
114	捏鉢	5F区 <b>VII</b> c層	(5F <b>VI</b> c)	391	1/8>	-	ヨコナテ゛/ヨコナテ゛・ナテ゛	灰白(N4/)/ 褐灰(10YR6/1)	1mm以下石英·他砂粒15- 20%(3mm石英含)	
115	捏鉢	5F区VIb層	(5FVIb)	56	1/8>	-	32†7°/32†7°	灰白(10YR8/2)/浅黄橙 (10YR8/3)	1mm以下石英10%	
116	捏鉢?	5F区VIIb層	(5FVIIb)	-	1/8>	-	30†5°/30†5°	にぶい橙 (7.5YR7/4)・ 褐灰 (10YR6/1)/ にぶい橙 (10YR7/3)	1mm以下石英15%前後、1mm 下黒砂粒5%未満	以口部付近破片
117	不明	5F区 <b>VII</b> b層	(5FVIIb)	309	1/8	(22.8)	不明/不明	灰白(10YR8/2)	1mm褐粒子5%未満(微細白	
118	不明	5F区 <b>VII</b> a層	(5FVIIa)	304	1/8	(15. 8)	不明/不明	灰白(10YR8/2)	粒15-20%) 目立った砂粒無	凸有
								にぶい橙(7.5YR6/4)/	1mm以下石英·軟赤粒10%(3	Bmm 胎土断面がマーブル
119	甕?	調査区内	-	_	1/8>		不明/不明	にぶい橙(5YR6/3)	前後石英含)	状の色調、層状に剥離
120	甕?	調査区内	-	-	1/8>	-	不明/不明	明褐灰(7.5YR7/2)/ にぶい橙(7.5YR7/3)	1mm以下石英10%以下(微組 砂粒含)	出黒 胎土断面がマーブル 状の色調
121	甕?	5E区VI-VII層	(5EVI-VII)	-	1/8>	-	不明/不明	にぶい褐(5YR6/4)/ にぶい褐(7.5YR6/3)	1-2mm石英5%以下(微細石)	
122	甕?	5F区VIIa層	(5FVIIa)	-	1/8>	-	横テデ/横ナデ	灰褐(7.5YR6/2)	1mm以下石英10-15%(3mm不含)	·英
123	甕?	4E区 <b>VII</b> c層	(4EVIIc +	514	1/8	_	不明/不明	にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下石英5%未満(微細	沙
124	甕?	5E区VIIc層下面	5EVIIb-c) (5EVIIc下)	372	1/8	_	不明/不明	浅黄橙(10YR8/3)	粒含) 1mm以下石英5-10%	
		5F区VIa層				_	†5° /†5°	灰黄(2.5Y7/2)/	1mm以下石英10%以下(微網	石
125	不明		(5FVIa)	106	1/8>			灰黄褐(10YR6/6)	英·黑砂粒含)	
126	鍋? 鍋·釜?	5F区VIIb層 5F区VIIa層	(5FVIIb) (5FVIIa)	_	1/8>	-	縦ハケメ/横ナデ タタキ?/ナデ?	淡黄(2.5Y8/3) にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下石英10%以下 1mm以下石英10%以下	
128	啊·兹: 不明	5F区VIIb-VIIa層			1/8>		79イ!/ ) 7 : 不明/デ	浅黄橙(10YR8/4)	1㎜以下石英5%(微細黒砂	並 外面に沈線状の凹み
129	壺?	5F区VIb層	(5FVIb)	61	1/8>	_	横疗゙/横・斜疗゙	にぶい橙(7.5YR7/4)	含) 2mm以下石英10%前後、1mmJ	
	班:		(4EVIIa-b)	-	1/8>		横疗゙・縦イタナデ/横ナ	□ 芸想 (10VPG/9) /	下黒粒・砂粒5%	n FeV
130	262 :	4E区VIIa-b層	(4EVIIa=0)		1/0/		1典// *和に17// /1典/	灰黄褐(10YR5/2) 橙(2.5YR6/6)・にぶい格	2-3㎜円礫主体の砂礫10-2	
131	甕?	5E区VIIa層	(5EVIIa)	115	1/8>	-	斜/ウォ/不明	(7.5YR7/4)/橙(7.5YR7/		.11111
132	不明	調査区内	-	-	1/8	(7. 2)	不明/不明	にぶい橙(7.5YR7/3)/ 明褐灰(7.5YR7/2)	1㎜石英3%(微細石英15%)	
133	不明	5F区VIIc層	(5FVIIc)	401	1/8	(9. 6)	(ケズリ?→)横ナデ/ナ;	デ にぶい橙(7.5YR7/3)/ にぶい橙(7.5YR7/4)	2㎜以下石英15%	底部に圧痕
134	製塩 土器?	4E区VIIc層	(4EVIIc)	-	1/8>	-	fr*/(布目痕)	橙(5YR7/6)/橙(5YR6/6)	目立った砂粒無(微細白・) 砂粒含)	<b></b>
135	製塩	4F区 <b>VII</b> c層	(4FVIIc)	231	1/8>	_	fデ/(布目痕)	橙(5YR6/6)/橙(5YR7/6)	目立った砂粒無(微細白・	Д.
	±器? 夏器•隆	1 55 米石							砂粒含)	
掲載				取上	き 大き	<b>*</b>				
番号	器種	出土位置(持	妾合状況)	番号	7	調	整(外面/内面)	色調(外面/内面)	胎土	拷
136	甕?	5F区(5FVI VIb層 5FVI	bハ/水 + h-c)	- 1/	8> -	327	tデ/ヨコナデ	灰(N6/)/灰(N5/)	目立った砂粒無(微細白砂 粒含)	
137	甕?	5F区 (5FVII		400 1/	0\ _	993	ト(平行)→ナデ/	黄灰 (2.5Y5/1)/灰 (N5/)/	1mm石英5%以下	
		VIIIa僧 6E区						割面-灰赤(7.5R5/2) 灰(N5/)/ 褐灰(7.5VDG/1)-灰(N4/)/		
138	甕?	VIIa層 (6FVII	a)	394 1/	0/ -		iて具痕) F(平行)/	割面-灰赤(10YR4/2)	1㎜以下石英5%以下	
139	甕?	5E区 VIIc層 (5EVII	c)	242 1/	- (8)			褐灰(10YR4/1·10YR6/1)/ 灰(N5/)	目立った砂粒無 書	川れ面二次被熱?
		5F区 (FEXAME	a)	159 1/	8> -			灰(N5/)/灰(N5/)/ 割面-灰赤10YR6/2)	1mm以下石英1%	
140	甕?	VIIa層 (5FVII								
140	甕?	VIIa層 (5FVII 5E区 VIIb-c層 (5EVII		- 1/	/8 -		F(格子目)→ナデ/ iて具痕)	灰(N5/)		川れ面胎土がマーブル状態 ウ色調を呈する
		VIIa層 5E区 (5FVII	b-c)	- 1/ 39 1/		(当 993	iて具痕) ド(平行?)/	灰(N5/) 灰(N5/)	(徽細白砂粒含) 0	
141	甕?	SE区	b-c)		8> -	(当 99 <sup>9</sup> (当	iて具痕) k(平行?)/ iて具痕)		(微細白砂粒含)     の       目立った砂粒無     書	色調を呈する
141	甕?	VIIa層   SE区   VIIb-c層   (SEVII   VIIb-C層   VIIb-VIIa層   SE区   VIIb-VIIa層   (SEVII   VIIb-VIIa層   CSEVII   VIIb-VIIa層   (SEVII   VIIb-VIIa層   CSEVII   VIIb-VIIa層   CSEVII   VIIb-VIIa層   (SEVII   VIIb-VIIa層   CSEVII   VIIb-VIIa	b-c) b) b-VIIa)	39 1/	8> -	(当 99年 (当 99年	iて具痕) k(平行?)/ iて具痕)	灰(N5/) 灰(N7/)/灰(N6/) 黄灰(2.5Y5/1)/	(微細白砂粒含) σ 目立った砂粒無 書	色調を呈する
141 142 143	蹇?	VIIa PE  SEEX VIIb-CPE  4EEX VIb PE  SEEX VIb-VIIa PE  4EEX VIb PE  4EEX VIb PE  5FEX  (SEVII	b-c) b) b-VIIa)	39 1/	8> - 8> - /8 10.	(当 タタネ (当 タタネ 2 ヨコナ	に ( 具痕 )	灰(N5/) 灰(N7/)/灰(N6/)	(微細白砂粒含)     の       目立った砂粒無     B       目立った砂粒無     り	色調を呈する
141 142 143 144	蹇? 蹇? 壺?	Vila@	b-c) b) b-Wa) b) 上ジ)	39 1/ - 1/ 11 1/	/8> - /8> - /8 10.	(当	iて具痕) ((平行?) / (て具痕) ((当て具痕) 「デ/コナデ・ 「デ/イケナデ? 部ケス・リ状)	灰(N5/) 灰(N7/)灰(N6/) 黄灰(2.5Y5/1)/ 褐灰(7.5T5/1)	(微細白砂粒含)     の       目立った砂粒無     お       目立った砂粒無     り       (微細白・黒粒20%以下)	色調を呈する
141 142 143 144 145	甕? 甕? 甕? 壺? 壶	VIIa   B	b-c) b) b-VIIa) b) -VIIa) -VIIa)	39 1/ - 1/ 11 1/ 405 8/ - 1/ 283.	8> - 8> - /8 10. /8 - 8> -	(当 タタネ (当 タタネ 2 ヨコウ (一 8 ヨコウ	iて具痕) (マ行?)/ iて具痕) ((当て具痕) 「デ/Jコナデ" 「デ/Jコナデ" 部ケス"リ状) ココナデ" Jコナデ"	灰(N5/) 灰(N7/)/灰(N6/) 黄灰(2.5Y5/1)/ 褐灰(7.5T5/1) 黄灰(2.5Y6/1)	(微細白砂粒含) 0 目立った砂粒無 ま 目立った砂粒無 切 (微細白・黒粒20%以下) 2mm以下軟(?)黒粒15%以下	色調を呈する
141 142 143 144 145 146	甕? 甕? 甕? 壺? 壶	VIIa   B     SE X	b-c) b) b-VIIa) b) -VIIa) -VIIa) 上が + 上が +	39 1/ - 1/ 11 1/ 405 8/ - 1/	10.   10.   12.   12.   13.   14.   15.	(当	iて具痕) (マ行?)/ (て具痕) ((当て具痕) (()) (()) (()) (()) (()) (()) (()) (	灰(N5/)  灰(N7/)/灰(N6/)  黄灰(2.5Y5/1)/ 褐灰(7.5T5/1)  黄灰(2.5Y6/1)  灰(N4/)	(微細白砂粒含) の 目立った砂粒無 ま 目立った砂粒無 が (微細白・黒粒20%以下) 2mm以下軟(?) 黒粒15%以下	色調を呈する

149	坏蓋?	4E区 VIIc層	(4EVIIc)		361	2/8	5. 8	32†7°/32;	tr*	黄灰(2.5Y6/1)/ 黄灰(2.5Y5/1)			
150	坏	5E区 VIIc層	(5EVIIc # + 5FVIIc 5EVIIa + 5EVIIc + 5EIX + 5FVIIb-VIIa 5FVIIa-b + 5FVIIa- 5FVIIb-c + P5)	a + -c +	68 · 185 · 247 · 250 · 412	5/8	口径 16.8 /底径 9.4 /高さ 6.5	^ラケズリ・ヨ: ヨコナデ・ナデ		灰(%6/)	高台は剥落してほとんど 残っていない		
151	坏	4F区 VI層	(4FVI)		51	1/8	7. 0	3コナテ <sup>*</sup> ・ナテ <sup>*</sup>	*/ヨコナデ	灰白(2/5Y7/1)	2mm以下軟(?) 黒粒1%	底部外面に	二藁状の圧痕
152	坏?	5E区 VIIb層	(5EVIIb)		164	1/8	8. 1	^ラケズリ→ <u>;</u>	tデ/ヨコナデ	灰(N6/)	(微細白砂粒10%以下、1mm砂 粒含)		
153	坏蓋?	4E区 VIIc層下面	(4EVIIc下)		-	1/8>	-	ヨコナテ゛?/不	明	灰(N5/)	目立った砂粒を含まない	焼け歪む?	<b>?</b> 、砂礫が焼き着く
154	不明	4E区 VIIa層	(4EVNa + 4EVI•VN	I)	-	2/8	-	30†7°/30;	t̄;°	灰 (5Y6/1) / 灰 (5Y6/1) · 灰オリープ (5Y4/2)	徽細白砂粒10%前後	内面に自然	<b></b>
155	緑釉 皿?	5E区 VI-VII層	(5EVI-VII)		-	1/8>	-			灰オリーブ゛(7. 5¥4/2・7. 5¥6/2)	目立った砂粒無		
156	捏鉢	5F区 VIIb層	(5FVIIb + 5FVIIb-c 5F小水)	p +	312	1/8	28. 0	32†f*/32;	tī, °	灰(N6/)	目立った砂粒無(微細白砂 粒含)		
157	捏鉢	5F区 VIIb-c層	(5FVIIb-c)		-	1/8>	-	32†7° →†? 32†7° (→		灰(N6/・7.5Y4/1)/ 灰(N6/)	目立った砂粒無	口部付近の	の破片か
158	捏鉢	5F区 VIb層	(5FVIb)		66	1/8>	27. 8	32†7°/32;	tō°	灰(N5/)·灰白(N7/)/ 灰白(N7/)	微細白砂粒10%		
159	捏鉢	5E区 <b>VII</b> a層	(5E区VIIa + 4EVIIa 5EVIIa + 5FVIb-V		181	1/8	24. 7	3277 /32	tē.	灰(5Y6/1·5Y5/1)/ 灰(5Y6/1)	(微細白砂粒10-15%、3mm石 英含)		
160	鉢?	5F区 V <b>II</b> b層	(5FVIIb)		-	1/8>	-	3コナテ <sup>*</sup> ・ナテ <sup>*</sup>	*/ <del>/</del> デ	灰(N6/)	1mm以下白砂粒10-15%		
161	捏鉢	5F区 VIb-WIa層	(5FVIb-VIIa)		-	1/8>	-	33†7°?/3:	コナテ゜?	灰(N5/)·灰白(N7/)/ 灰白(7/)	微細白砂粒5%		
162	不明	5E区 V <b>II</b> b層	(5EVIIb)		276	-	-	tデ?/ヨコナ	デ・ナテ゛	灰白(5Y8/1)/ 灰白(5Y7/1)	1mm以下軟(?) 黒粒5&未満 (微細白砂粒含)	図左下縁に	は割れ面が平滑
163	不明	5F区VIIc層	(5FVIIc + 5FVIIb + 5FVIIa-c + 5FVIIb-		337	-	-	ナテ゜/ナテ゛		黄灰(2.5Y6/1)	1mm以下軟(?) 黒粒·他砂粒 15%以下		
164	甕	5E区 <b>VII</b> 層 上面	(5EVII上メン)		45	1/8>	-	縦ハケメ?→: ヨコナテ゛	33†デ/	灰白(10YR7/1)・ 褐灰(10YR5/1)/ 灰白(10YR7/1)	1mm以下石英5-10%		
165	甕?	5F区 VIIb-c層	(5FVIIb-c層)		-	1/8>	-	32†f*/32;	tī,°	灰(N6/・N5/)/灰(N5/)	1mm以下白砂粒5-10%、3mm前 後石英·他礫3-5%		
166	甕?	5F区 <b>VII</b> a層	(5FVIIa)		161	1/8>	-	32†f*/32;	tī, °	灰(N6/)/灰白(N7/)・ 灰(N6/)	1mm以下白砂粒5-10%		
167	鉢?	5F <b>VII</b> c層	(5FVIIc)		-	1/8>	-	3377*/33;	ナテ°	褐灰(10YR5/1)/ にぶい黄橙(10YR5/3)	1mm以下石英5-10%		
168	擂鉢	5E区 VI層	(5EVI)		-	1/8>	-	3コナデ・斜:	tデ/ヨコナデ	灰(N6/)/灰(N5/)/ 割面-灰赤(10YR6/2)	内面櫛目(7+α)条		
磁器	等												
掲載 番号	器種	出土位	置(接合状況)	取上 番号	77	口径	大きさ 底径		色調(釉/	胎土)	胎土		備考
169	青磁 椀	5E⊠V <b>I</b> Ia	層 (5EVIIa)	402	1/8>	14. 2	-	-	にぶい黄	掲(10YR5/4)/灰黄褐(10YR6/2)	目立った混入物無		越州窯系か
170	青磁 椀			137	1/8>	-	-	-		5GY6/1)/灰白(N7/)	目立った混入物無(微細灰-	黒粒子含)	龍泉窯系か
171	青磁 椀	5F⊠VIIa		77	1/8>	_	_	-		)/灰白(2.5Y8/2)	目立った混入物無(微細黒		龍泉窯系か
172	白磁 椀			-	1/8>	_	-	-		/1)/灰白(N8/)	目立った混入物無(微細黒		
173	白磁皿	5F⊠VIa		114	3/8	10.0	4. 5	2.6		/1)/灰白(5Y8/1)	目立った混入物無(微細黒		目跡有
174	白磁八角杯		Ia層 (5FVI-VIIa)	-	2/8	-	-	-		GY8/1)/灰白(2.5Y8/1)	目立った混入物無(微細黒		

附表 5 山之後遺跡出土土製品・石器観察表

土製	品											
掲載	器種		位置	取上		大きさ(cm		重量	色調	胎土		備考
番号		(注記名・	接合状況)	番号	長さ	幅	厚さ	(g)	- 45 / (-)			
175	瓦	5E区VIIa層	(5EV <b>I</b> a)	226	(7.4)	(6.9)	(2.3)	(100.0)	灰黄(2.5Y7/2)· 浅黄(2.5Y8/3)	目立った	砂粒無	内面に布目痕、外面にタタキ痕
176	瓦	5F区VI-VII層	(5FVI-VII)	-	(2.1)	(4.5)	(1.8)	(14.9)	浅黄橙(7.5YR8/4)	) 1mm以下	軟赤粒5%	外面にタタキ痕
177	瓦	5E区VI層	(5EVI)	44	(3.2)	(5.9)	(2.8)	(39.4)	灰 (N6/1·N5/1)	目立った	砂粒無	須恵質、内面に布目痕、外面にタタキ痕
178	瓦	5F区VI-VII層	(5FVI-VII)	-	(3.5)	(4.8)	(2.5)	(27.8)	灰 (5Y6/1)	目立った	砂粒無	須恵質、内面に布目痕、外面にタタキ痕
179	不明	5E区VIIc層	(5EVIIc)	331	(3.5)	(1.9)	(1.9)	(11.4)		目立った	砂粒無	質は瓦質土器に類似、表面に擦痕状の 筋がみられる
180	転用紡錘車?	5F区 <b>Ⅶ</b> b-c層	(5F <b>VI</b> b−c)	-	(5. 5)	(5. 1)	(1.6)	(26. 1)	浅黄橙(7.5YR8/6) 橙(5YR7/6)	<ul><li>目立った (微細石</li></ul>		
181	土錘	5E区VIIc層下面	(4EVMc下)	364	4. 59	1. 23	(0.60)	(6.03)	黒褐(2.5Y3/1)・ 黄灰(2.5Y5/1)	(微細砂	粒·軽石含)	内径3㎜程度
182	土錘	5E区VIb層	(5EVIb)	124	(3.72)	1. 28	(0.55)	(5. 13)	赤橙(10Y6.6)	(1mm以下	白色砂粒を含)	内径4mm程度
183	焼成粘土塊?	5F区VIb-VIIa層	(5FVIb-VIIa + 5EVIIb + 5EVIIa)	132 · 265	(11.8)	(6.0)	(4.0)	(230. 9)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	目立った		スサを含む、二次被熱による変色等は みられない、重量は補強材含む
184	焼成粘土塊?	5F区 <b>VII</b> b層	(5FVIIb)	288	(7.7)	(7.4)	(3.5)	(167. 0)	浅黄橙 (7.5YR8/4)/ にぶい橙 (2.5YR6/4)	1mm以下	軟赤·黒粒10%	
185	焼成粘土塊?	5F区VIIc層	(5FVIIc)	419	(5. 9)	(4.1)	(3.9)	(95. 3)	灰白(10YR8/)	目立った	砂粒無	
186	焼成粘土塊?	4E区VIIc層	(4EVIIc)	357	(4. 3)	(7.0)	(4.1)	(85. 4)	浅黄橙(10YR8/4)		軟赤粒(高師	高師小僧様の軟質赤色粒子を多く含む
187	鞴羽口	5F区VIIb層	(5FVIIb)	294	(9.9)	(8.7)	(4.0)	(210. 7)	明褐灰 (7.5YR7/2)·明褐 灰(7.5YR7/2)		:砂粒無[軟赤 小僧?)含]	外面に簀巻きによる凹凸有
188	鞴羽口	5F区VIIa層	(5F <b>VI</b> a)	93	(7. 9)	(7.0)	(2.7)	(141. 7)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	1mm以下 (2-4mm花	石英20%前後 >粒含)	
189	鞴羽口	5F <b>WI</b> b−c層	(5F <b>VI</b> Ib-c)	-	(7. 1)	(3.5)	(2.7)	(47. 3)	灰白(2.5T7/1)·沙 黄橙(10YR8/3)		石英3%以下 英5-10%)	被熱により発泡および変色、図上部で 断面外側の厚さ2cm(図上部)-0.5cm (図下部)の部分が還元色を呈する
石器	ļ r											
掲載	器種	ш.	<b>土位置</b> (注記名)		取上		大きさ(cr	n)	重量	石材	備考	
番号	<b></b>	ш:	工111直(社記名)		番号	長さ	幅	厚さ	(g)	白州	順考	
190	打製石鎚	ķ 4E⊠VI−	VII層 (4EVI·VII)		-	(2.02)	(1.30)	0. 3	2 (0.65)	頁岩		
191	磨製石器	片 4E区 <b>VII</b>	c層 (4EVIIc)		-	(3.07)	(1.71)	(0.3)	(1.69)	頁岩		
192	二次加工录	l片 5E区VI-	VII層 (5EVI-VII)		-	3.84	5.26	1. 2	24.9	砂岩	被熱?	
193	磨石	4E⊠VII	a層 (4EVIIa)		235	(7.88)	(7.44)	(2.6	3) 198.0	御鈴山 酸性岩類		
194	磨石	5F区VII	c層 (5FVIc)		244	(4.42)	(6.11)	(3. 3	1) (96. 7)	砂岩		
195	磨石	5F⊠VII	b層 (5F <b>VII</b> b)		128	(7.40)	(4. 23)	4.6	7 (156. 8)	砂岩	被熱により、 を呈する	にぶい橙~橙色(2.5YR7/4~2.5YR6/8)
196	磨石(・砥石	i?) 5F区VI	c層 (5FVIc)		399	(7.03)	(6.50)	(3.6	7) (137. 2)	砂岩	被熱による	ためか一部黒変
197	磨石(・砥石	i?) 5F区V <b>I</b> c原	層下面 (5FIX上ル	')	425	(8.50)	5. 25	3. 19	9 (194. 1)	砂岩		
198	磨石?	5E区VII	c層 (5EVIc)		238	(9.31)	6.69	(4. 9)	) (376. 2)	砂岩	被熱による	ためか一部黒変
199	台石?	5F⊠ <b>VI</b>			417	(7.70)	(11. 80)	(6. 5)	7) (820. 9)	砂岩		

## 写 真 図 版



1 山之後遺跡調査地付近上空からみた工区路線(上が北)



1 潮遺跡調査地上空から北側を望む (上方右端付近が日向国府などがある西都市街地)



2 潮遺跡調査区全景(右が北)



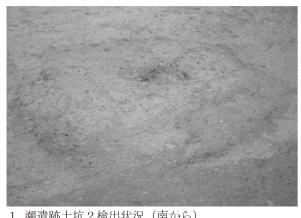
1 潮遺跡 土坑2遺物出土状況 (上が東)



2 潮遺跡 自然流路1・2全景 (上が南)



3 潮遺跡 甌穴4底面の木製品 出土状況(上が北)



1 潮遺跡土坑2検出状況(南から)



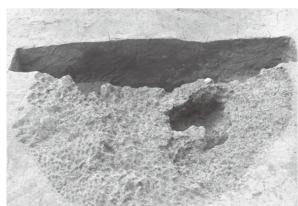
2 潮遺跡土坑2半裁状況(南から)



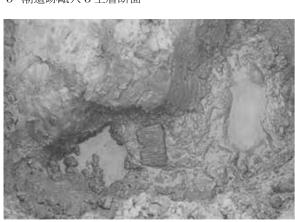
3 潮遺跡土坑1遺物出土状況(南から)



4 潮遺跡甌穴2土層断面



5 潮遺跡甌穴3土層断面



7 潮遺跡甌穴 4 遺物出土状況



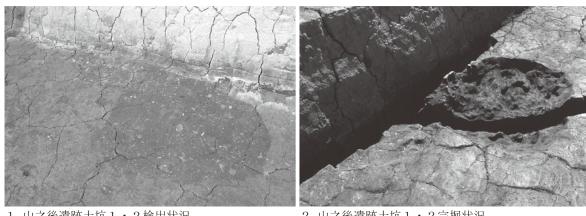
6 潮遺跡自然流路2検出状況



1 山之後遺跡調査地付近上空から南東方向を望む

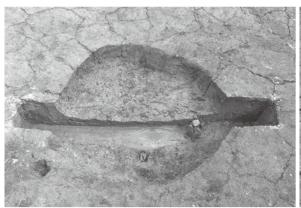


2 山之後遺跡調査区全景(右が北)

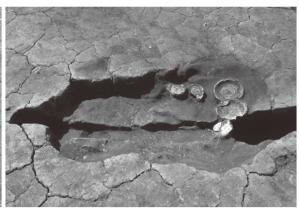


1 山之後遺跡土坑1・2検出状況

2 山之後遺跡土坑1・2完掘状況



3 山之後遺跡土坑3完掘状況



4 山之後遺跡土坑4遺物出土状況



5 山之後遺跡土坑4完掘状況



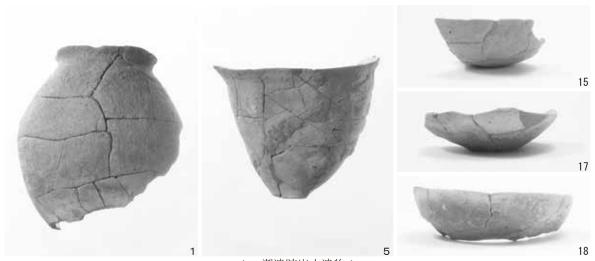
6 山之後遺跡土坑6完掘状況



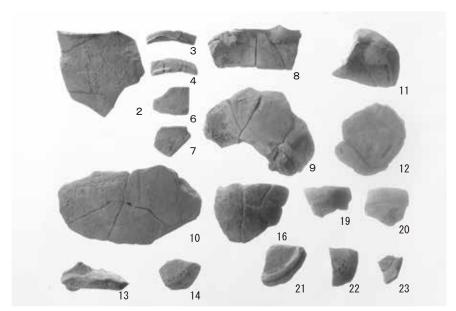
7 山之後遺跡土坑7完掘状況



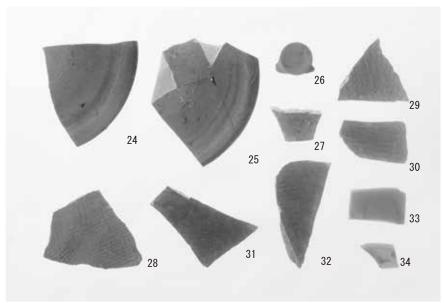
8 山之後遺跡土坑8完掘状況



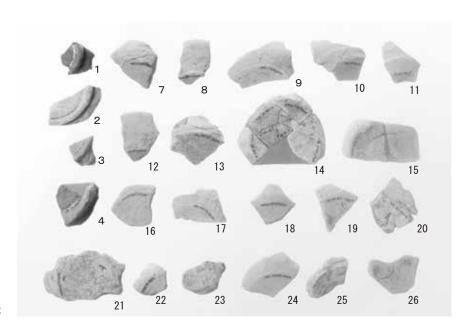
1 潮遺跡出土遺物1



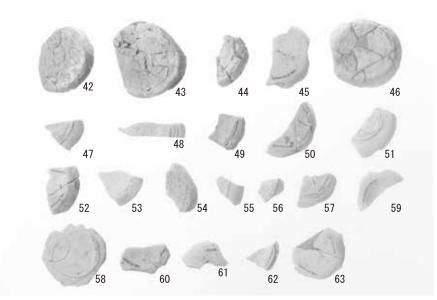
2 潮遺跡出土遺物2

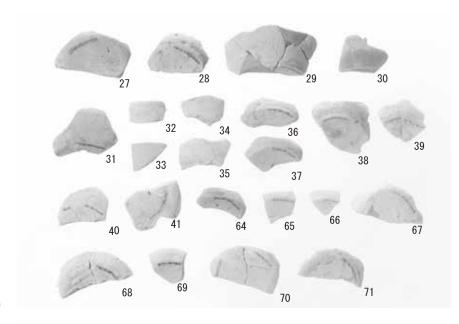


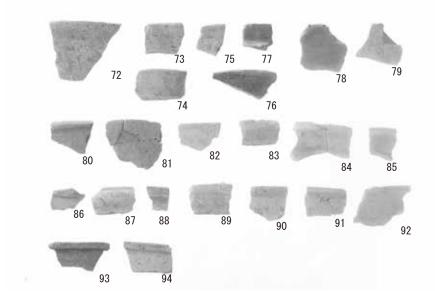




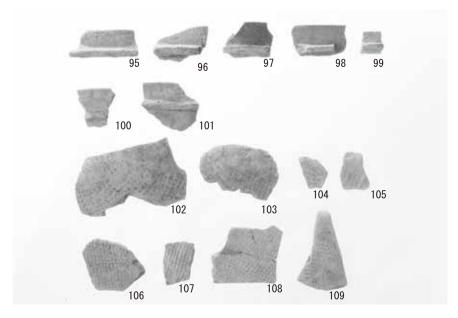
2 山之後遺跡出土遺物 2

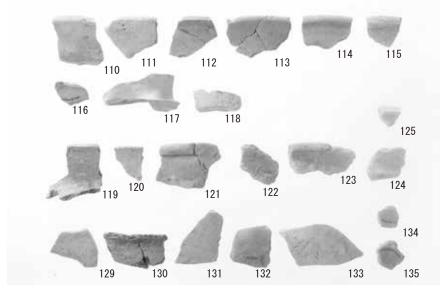




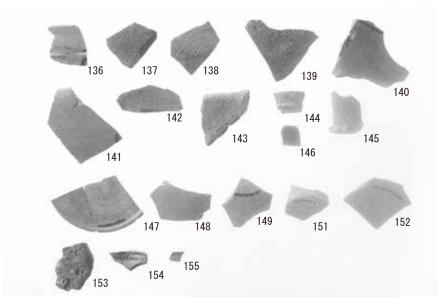


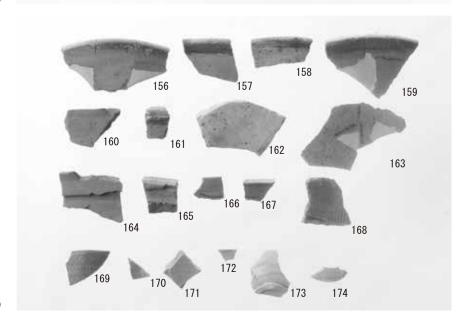
#### 2 山之後遺跡出土遺物 5

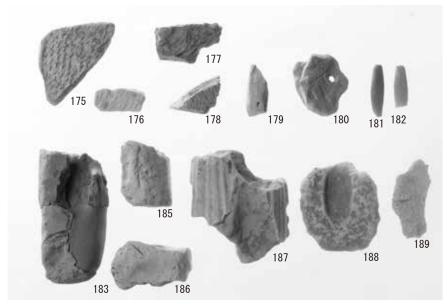


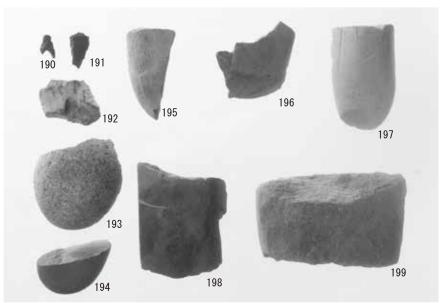


1 山之後遺跡出土遺物7









2 山之後遺跡出土遺物11

#### 報告書抄録

				TK II	H 12					
ふ り が な うしおいせき・やまのうしろいせき										
書	名 潮遺跡・山之後遺跡									
副書	- 名 一般県道札ノ元佐土原線(潮工区)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告					調査報告書				
シリー	ズ名	宮崎	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリース	(番号	第24	2集							
編著	者 名	加藤	加藤 徹							
発行	幾関	宮崎県埋蔵文化財センター								
所 在	〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地									
発 行 年	月日	2017	年 11月	30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりカ 所在	<sup>iな</sup> 地		コード 市町村 遺跡番号			東経	調査期間	調査面積	調査原因
うしおいせき 潮遺跡	みやざきけんさ 宮崎県西: かのだあざうし 鹿野田字: ばんち 1919番地	都市 ぉ 潮	45208		32度 04分 32秒 付近		131度 23分 25秒 付近	2015. 12. 14~ 2016. 2. 2	約400㎡	一般県道 札ノ元 佐土原線
やまのうしろいせき山之後遺跡	みやざきけんさ 宮崎県西 かのだあざやま 鹿野田字 ば 2961-1番	都市 このうしろ 山之後 んち	45208		32度 04分 24秒 付近		131度 23分 33秒 付近	2016. 7. 4 ~ 2016. 9. 8	約300㎡	(潮工区) 道路改良 工事
所収遺跡名	種 別	時 代	主	な遺	構		主な	遺物	特記	事 項
潮遺跡	集落・ 散布地	古墳時代 末~古代 近世以降	自然流	路・甌穴 溝状遺構	2基	土	師器・須	i惠器	る遺構から	可能性があ7世紀前半
山之後遺跡		古代中世	土坑		8基	須恵器・瓦・鞴羽口 中世の土器・陶研が出土している付 古代の官営施設に すると思われる 巻き状の成形痕を 鞴羽口が出土。			いる他に、 施設に関係 れる瓦や簀 形痕をもつ	
<ul> <li>割遺跡からは、7世紀前半頃の土器を伴った焼成土坑の可能性がある土坑がみつかった。また、それよりも新しいと考えられる甌穴を伴う自然流路を検出した。甌穴の形成要因から調査区の東側まで南側の丘陵が延びていた状況を想定することができる。そして、近世よりも新しい時期に、丘陵などを削平して水田として利用が行われたのではないかと考えられる。山之後遺跡からは、包含層から古代の遺物のほか、中世の遺構と遺物がみつかっている。古代の遺物には、瓦や簀巻き状工具によって成形されたと思われる鞴の羽口が出土している。また、焼け歪んだような須恵器や断面が二次被熱したような須恵器が出土している。このような状況から、8世紀後半頃には、この付近に瓦や須恵器、そして鉄器を製作するような官営工房のような施設があったことが想定される。続く中世の段階では、12世紀頃と思われる土師質土器を伴った土坑がみつかった。包含層からは13~14世紀頃を中心とする遺物が出土しており、その頃のものと思われる土坑・ピットがみつかった。検出した遺構の埋土や土層の堆積状況から、山之後遺跡では、12世紀頃に一度整地が行われており、その後、15世紀頃に再び造成が行われた可能性が考えられる。付近には中世後半期に日向一円を支配した伊東氏の本城である都於郡城があり、その影響を受けていたと思われる。このような成果から、この付近は各時期の政治的な影響を強く受けた地域であったと考えられる。</li> </ul>										

#### 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第242集

### 潮遺跡 • 山之後遺跡

- 一般県道札ノ元佐土原線(潮工区)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2017年 11月
- 発 行 宮崎県埋蔵文化財センター 〒 880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地 TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660
- 印刷 K・P クリエイションズ株式会社 〒 880-0803 宮崎市旭1丁目6-25 TEL 0985(24)4155 FAX 0985(24)1512

Saito City

# USHIO Site YAMANOUSHIRO Site

The Excavational Investigation Report of Miyazaki Prefectural Archaeological Center vol.242

2017

Miyazaki Prefectural Archaeological Center